

CSRレポート 2014 Corporate Social Responsibility Report



三菱製紙株式会社

〒130-0025 東京都墨田区両国2-10-14
両国シティコア

URL : <http://www.mpm.co.jp/>
※内容に関するお問い合わせ先
社長室 TEL03-5600-1481
FAX03-5600-1489

発行日 : 2014年8月31日
発行 : 三菱製紙株式会社
製版印刷 : 光村印刷株式会社 (7,500)



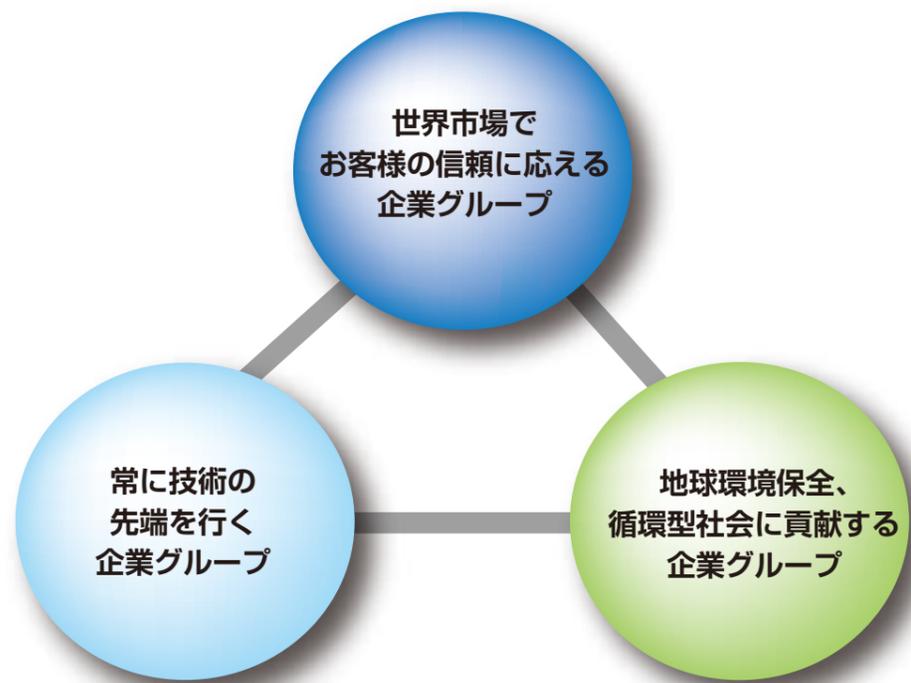
本レポートで使用している用紙は、
森を元気にするために間伐した木
材の有効活用に役立っています。



本レポートは、当社生産のFSC®森
林認証紙「森の町内会 A2マット
FSC®認証-MX」を使用しています。

三菱製紙株式会社

グループ企業理念



世界市場、技術力、地球環境のアプローチから、社会に貢献することを目指します。

ウェブサイトのご案内

<http://www.mpm.co.jp/>

三菱製紙ホームページでは、CSR／環境情報、IR情報、製品・サービスの情報、研究開発の情報、会社基本情報、採用情報等のさまざまな情報を掲載しています。

- CSRレポート
<http://www.mpm.co.jp/env/report-index.html>
- アニュアルレポート（英文）
<http://www.mpm.co.jp/ir/library/annual-report-eng.html>
- 決算短信
<http://www.mpm.co.jp/ir/library/financial-results.html>
- 有価証券報告書
<http://www.mpm.co.jp/ir/library/securities-report.html>
- 決算経営報告資料
<http://www.mpm.co.jp/ir/library/presentation-materials.html>
- 中期経営計画
<http://www.mpm.co.jp/ir/library/midplan.html>
- MSDS
<http://www.mpm.co.jp/env/msds.html>
- 他



FSC® C021528

編集方針

本レポートは、三菱製紙グループの社会、環境を含めた企業の社会的責任（CSR）全般の取り組みをステークホルダーの皆様にご報告するために発行しており、毎年内容のレベルアップに努めています。

本レポートでは、ISO26000 を考慮して7つの中核主題、すなわち組織統治、環境、消費者に関する課題、人権、労働慣行、コミュニティへの参画およびコミュニティの発展、公正な事業慣行についてご報告しています。

2013年度のレポートに対するアンケートの結果では、多くの方から分かりやすいとの評価を得ています。また、多くの方に興味を持っていただいた項目は、「特集 技術の先端を行く商品・サービス」、「社会貢献」、「経営施策」などでした。今後ともCSRの取り組みを更に充実させるとともに、アンケートを参考に、より一層分かりやすい形での情報発信に努めます。

■ 対象範囲

従業員とのかかわり、お客様とのかかわり、地域とのかかわりに関しては、三菱製紙グループ（本体および国内外連結子会社）を対象としています。環境とのかかわりに関しては三菱製紙（本体）および生産子会社を対象にしています。海外の生産子会社については、環境に関する法規制が国により異なるため、参考値として記載しました。

■ 対象期間

2013年度（2013年4月1日～2014年3月31日）としましたが、一部対象期間外の内容も含まれます。

■ 参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2013」
環境省「環境報告書ガイドライン2012年度版」
ISO26000

■ お問い合わせ先

三菱製紙株式会社 社長室
〒130-0026 東京都墨田区両国2丁目10番14号
Tel : 03-5600-1481 Fax : 03-5600-1489
E-mail : csr@mpm.co.jp

■ 発行日

2014年8月31日

■ 次回発行予定

2015年8月

〈表紙の写真〉福島県西郷村の社有林

目次

トップメッセージ	3
経営施策について	4
特集 環境・社会課題に向けた取り組み	
お客様と共に行う森林保全	5
地域木材産業の振興	9
商品を通じた環境への貢献	11
コーポレート・ガバナンス（※組織統治）	
会社の機関の概要、CSR推進体制	17
コンプライアンス、リスクマネジメント	18
株主・投資家とのかかわり	19
公正な事業慣行（※公正な事業慣行）	
下請法、公正な競争、汚職防止	20
合法性および適正管理の確認方法	20
環境とのかかわり（※環境）	
環境管理体制、地球温暖化防止	21
生物多様性保全	24
エコシステムアカデミー	25
資源の循環利用と廃棄物の有効利用	27
従業員とのかかわり（※人権、※労働慣行）	
労働安全衛生の取り組みについて	28
働きやすい職場づくりに向けて	29
お客様とのかかわり（※消費者に関する課題）	
品質管理体制、製品安全管理体制	31
ユーザーニーズを反映したCS向上、トピックス	31
地域とのかかわり（※コミュニティへの参画およびコミュニティへの発展）	
技術を活かして	33
地域環境への貢献、地域との共生	34
海外での取り組み	34
2013年度の活動実績と2014年度の目標	
2013年度の活動実績	35
2014年度の目標	36
資料・データ	37～42
三菱製紙グループの紹介	43
三菱製紙グループの生産拠点	44
会社概要	45
第三者意見	46

※ISO26000 7つの中核主題

トップメッセージ



三菱製紙グループは、東日本大震災直後に立案した「第1次中期経営計画」について、事業環境の変化に応じた戦略等の見直しを行い、2013年11月に「第1次中期経営計画フェーズ2 ローリングプラン」を策定しました。

『成長に向けての収益基盤強化』の実現に向けた諸施策に鋭意取り組んでおり、八戸工場と関連子会社の事業再編（2014年4月1日にエム・ピー・エム・オペレーション株式会社を設立）による構造改革を断行し、また、エネルギー事業室を設置（2014年4月1日）してFIT事業（再生可能エネルギー電力買取制度）の実施に向けた本格的な検討を開始しております。

三菱製紙グループのCSR活動は、2007年の着手から7年が経過し、2012年1月にはCSR推進体制を再編し責任の所在の明確化を図りました。

CSRの目的はステークホルダーの皆様からの信頼と共感を得ることを通じ、企業価値の向上につなげることにありと認識しております。今後も、特徴あるCSR活動の推進に努めるとともに、更にその展開、充実に向けて取り組んでまいります。

2013年度は「不安全行動災害撲滅に向けた取り組み強化」、「ユーザーニーズを反映したCS向上」、「法令遵守の徹底」を最重要課題として取り組み、製品面ではFSC®森林認証製品やサーマルディジブプレートシステムといった環境配慮型商品の充実を図りました。

また、当社をとりまく環境におきましては、より一層の法令遵守が必要と認識し、2014年1月に法務部を立ち上げました。

2014年度は、安全成績の向上と関連法規の確実な遵守に的を絞、「不安全行動災害撲滅に向けた取り組み強化」、「法令遵守の徹底」を最重要課題として取り上げ、①CSR経営基盤の充実、②環境経営の推進、③ユーザーニーズを反映したCS向上、④働きやすい職場作りに関する取り組みの充実、⑤社会貢献活動の推進の5点の基本方針の下で、「コンプライアンス」「リスクマネジメント」「安全衛生」「環境」「製品安全」「製品品質」「人権・労働」「情報」「社会貢献」の各項目において、企業価値の向上につなげる活動を推進してまいります。

本レポートにより、三菱製紙グループのCSR活動をご理解いただければ幸いです。

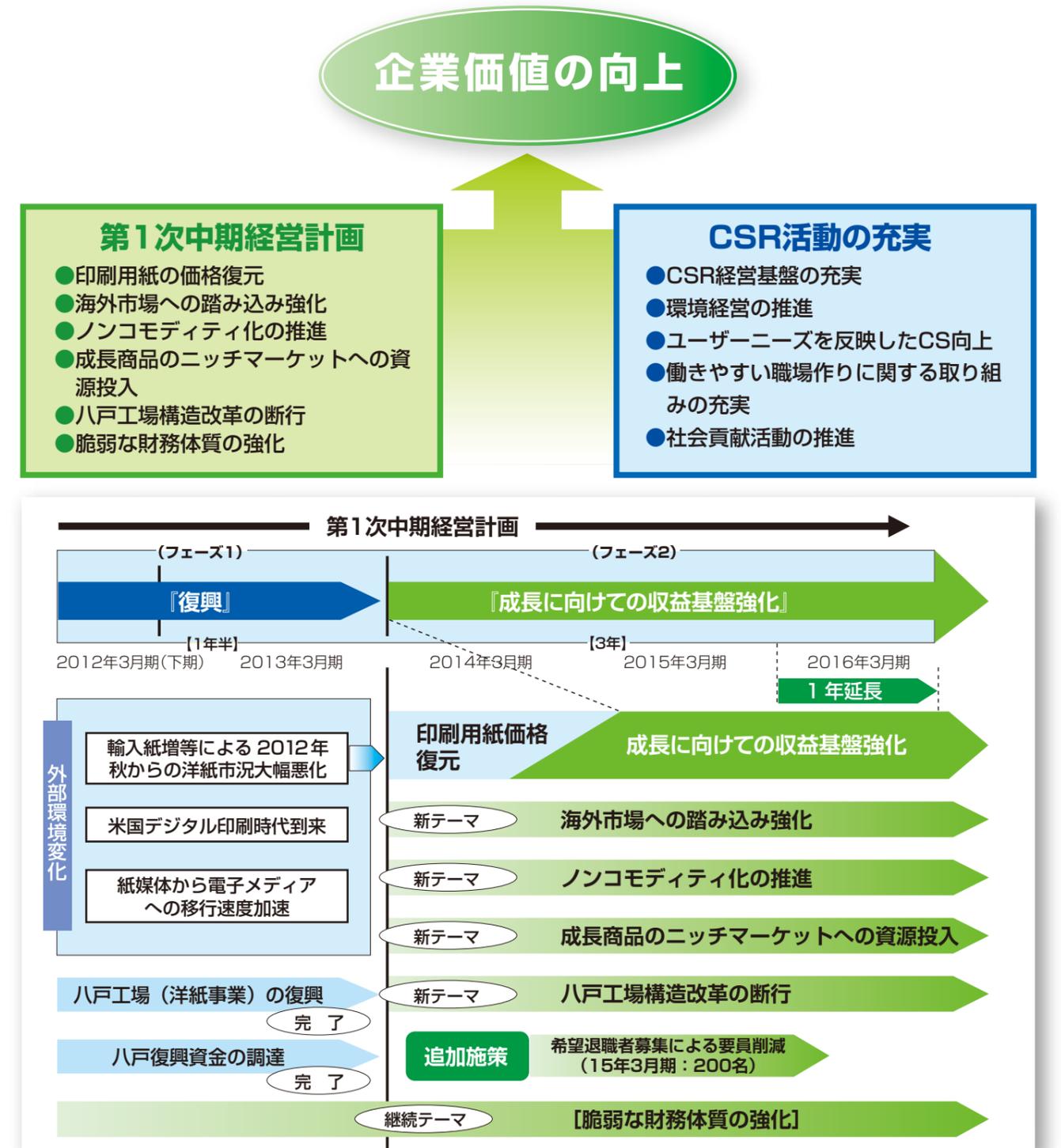
今後、CSR活動を一層充実したものにするため、皆様の忌憚のないご意見・ご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。

取締役社長

鈴木邦夫

経営施策について

日本経済は緩やかな回復の動きを見せていますが、電子化の拡がりによる国内紙需要の構造的縮小、苛烈な競争を伴うグローバル化が進行しており、三菱製紙グループをとりまく経営環境は依然としてたいへん厳しいまま推移しています。このような経営環境の中、三菱製紙グループの基本理念を具現化し経営基盤の安定化を目指すため、第1次中期経営計画を実行していくとともにCSR活動の充実を通して企業価値の向上に努めていきます。



第1次中期経営計画では、フェーズ1として2012年3月期下期～2013年3月期の1年半を『復興』フェーズ2として2014年3月期～2016年3月期の3年間の期間として位置づけています。

特集 環境・社会課題に向けた取り組み

三菱製紙グループでは特徴ある CSR 活動として事業活動を通じた社会への貢献を目指してまいりました。これらの活動の中で、環境や社会課題の解決に向けた取り組みについて紹介します。

1. お客様と共に進む森林保全

森林の面積は大きく、その管理には人手と時間が必要です。直接の関係者限りでなく、多くの方とかがわることが不可欠と考えています。森林保全の輪を広げる取り組みについて紹介します。

■ FSC®マークを知ってもらうために

2013年12月に東京ビッグサイトで開催されたエコプロダクツ2013では、三菱製紙グループのブースにおいて、お客様のご協力のもと、世間で見られるさまざまな FSC マークのついた商品を集めて展示し、来場者の皆様に FSC マークの広がりを感じていただきました。



三菱製紙グループのブース

FSC森林認証紙の広がり ▶ P11-12



FSC マークのついた商品

☆ FSC応援プロジェクト

「FSC 応援プロジェクト」の facebook ページが 2013 年 10 月 14 日にオープンしました！
FSC マークを知って選ぶことは、適切に管理された森とつながり、毎日の生活を通して森の元気を応援することになります。当プロジェクトを facebook の「いいね！」で応援して下さる FSC サポーターを募集中です！参加方法 facebook ページを「いいね！」するだけ。ぜひ、ご参加ください。

詳しくは、ホームページをご覧ください。
<http://shitte-erabo.net/>

■ FSC®森林認証制度について

FSC 森林認証制度は、「責任ある森林経営」の普及を目的に、NGO・企業・先住民団体などにより 1993 年に設立された森林認証制度です。認証は FM 認証と COC 認証の 2 つの認証から成り立っており、第三者機関が審査・認証を行います。FM 認証取得事業者から COC 認証取得事業者をつないで認証製品を流通させることで FSC マークを付けることができます。



FM 認証 (森林管理の認証)

森林管理が森林管理の 10 原則に基づき、環境保全の点から見て適切で、社会的な利益にかなない、経済的にも継続可能であることを評価・認証します。



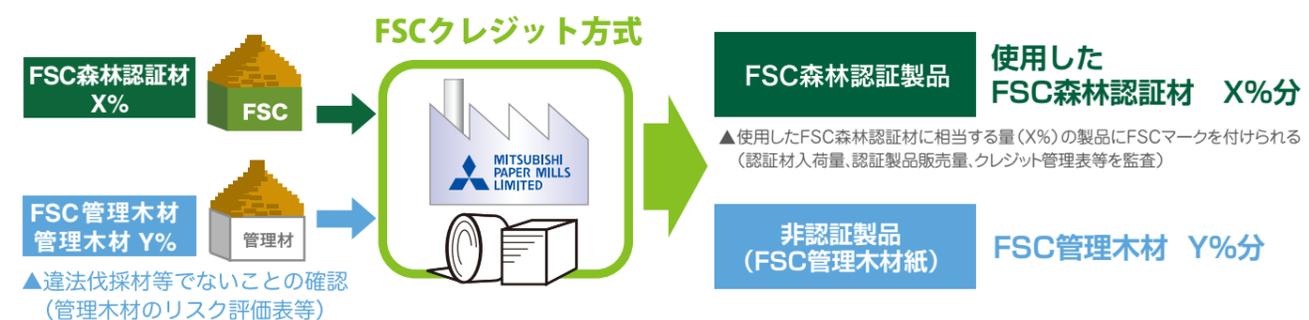
COC 認証 (加工・流通工程の認証)

認証された森林から伐り出された木材が、加工・流通の段階においても他の木材と混ざることなく管理されていることを認証します。

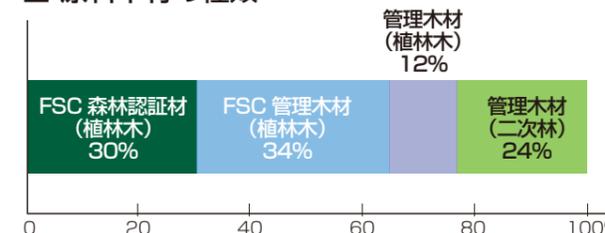
三菱製紙グループでは国内外の全ての生産拠点で COC 認証を取得しており、FSC 森林認証紙はクレジット方式で生産しています。

<クレジット方式と製紙原料の調達>

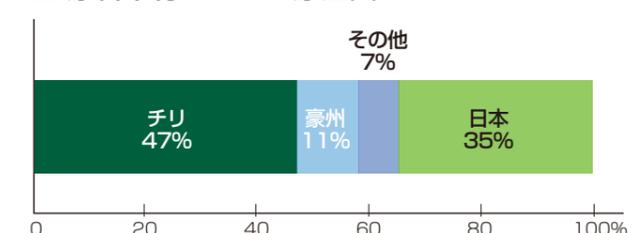
クレジット方式では、FSC 森林認証材以外の部分も社会・環境に配慮することが求められ、使用する全ての木材原料が FSC の規格の下に管理されていることとなります。したがって FSC 森林認証紙を生産する際に用いる木材チップおよび木材パルプは「FSC 森林認証材」「FSC 管理木材」および「管理木材」を調達しています。



■ 原料木材の種類



■ 原料木材チップの原産国



2013 年度はパルプ生産に 1130 千トン (乾燥重量) の木材チップを使用しました。原料となる全木材チップ FSC 森林認証チップの比率は 30% であり、国内製紙メーカーのトップレベルにあります。

木材チップ以外に木材パルプを約 12 千トン (乾燥重量) 購入しました。約 40% が FSC 森林認証パルプです。

ポイント!

2013 年度に購入した木材チップおよび木材パルプは、すべて合法かつ適正に管理された森林からの木材に由来することが確認できています。

詳しくは、三菱製紙ホームページをご覧ください。
<http://www.mpm.co.jp/fsc/about/index.html>

FSC®森林認証を中心とした「使って、育てて、森を元気に。」
森の笑顔が届ける『Mori-smile®』プロジェクト。

三菱製紙では、2001年8月に日本の製紙メーカーとしてはじめて八戸工場(青森県)でCOC認証を取得し、現在に至るまで各種FSC森林認証紙を提供しています。また、FSC森林認証を核とした各種サービスを「Mori-smile」と名付け「森の笑顔」が届けるプロジェクトに取り組んでいます。



森の笑顔が届ける
Mori-smile

smile 1 "森の笑顔"が届ける『FSC森林認証紙』

FSC認証紙を購入することで、木材の合法性確認、森林保全や生物多様性保全などに貢献できます。

FSC森林認証制度について ▶ P6

smile 2 "森の笑顔"を学ぶ『エコシステムアカデミー』

地球温暖化防止や生物多様性保全との関連も含めて学習して頂くことを目的に、植林、教育プログラムを用意。社内教育およびお客様へのPRにご利用下さい。

エコシステムアカデミーについて ▶ P25-26

smile 3 "森の笑顔"を応援する「FSC森林認証の森」サポーター制度

「FSC森林認証の森」サポーター制度は、木材製品の消費者による責任ある森林管理の支援を通じて、「FSC森林認証の森」を応援しています。

FSC森林認証の森サポーター制度について ▶ P10

smile 4 "森の笑顔"を活用した『オリジナルブランド』

各企業が植林を実施している森林にて、その地区の木材を利用して「オリジナルブランド」の紙製品が供給可能です。更なる森林の活性化にご利用下さい。

オリジナルブランドについて ▶ P10



FSC®国際本部事務局長の来社

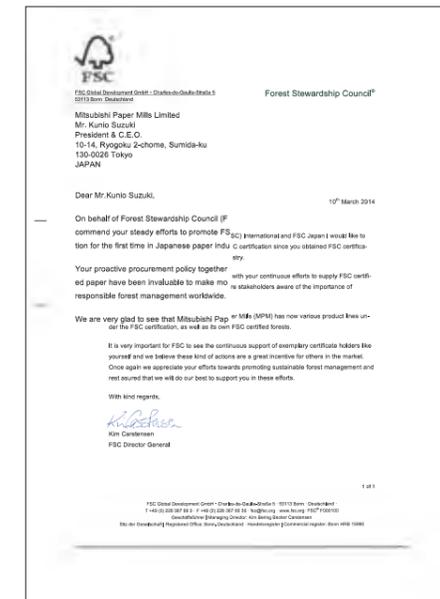
2014年3月11日にFSC国際本部のキム事務局長が三菱製紙本社を表敬訪問されました。

本社11階のギャラリーにて当社のFSC森林認証製品をご覧になられた後、三菱製紙鈴木社長、水野専務他とFSC国際本部の今後の取り組み、FSCの認知度向上策等について意見交換をされました。



FSC森林認証製品の前にて

(左より FSC ジャパン前澤事務局長、FSC 国際本部キム事務局長、鈴木社長、FSC ジャパン太田議長、水野専務)



会議終了後、三菱製紙の長年に渡るFSCに関する取り組みに対して、FSC国際本部キム事務局長より鈴木社長に感謝状が贈呈されました。

FSC森林認証制度について ▶ P6

FSC ジャパンの支援

FSC ジャパンが主催する各種セミナーに積極的に協力しています。

また、ジャパンキャンペーン実行委員会にも参加し、FSCビジネスフォーラム2013の運営面で支援を行いました。

2. 地域木材産業の振興

日本の森林を守り育てるためには林業が大切ですが、経済的に苦しい状況におかれています。地域の林業や木材産業が元気になるように支援する取り組みについて紹介します。

■ 岩手県産二次林材の循環利用促進

北上ハイテクペーパーでは、高白色度の高級広葉樹パルプおよび写真用原紙を生産しています。その原料となる広葉樹チップ消費量は岩手県における広葉樹生産の70～80%に相当します。

広葉樹はこれまで薪炭材やパルプ材として約40年周期で伐採→萌芽→生長→伐採を繰り返してきましたが、近年、広葉樹林業の担い手不足や山林経営意欲の減退等により集荷量が減少する傾向にあります。



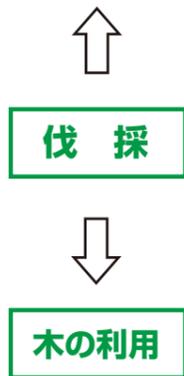
伐採直後

伐採1年後

伐採3年後

伐期前 (林齢約40年)

伐採5年後



広葉樹二次林材の持続可能な循環利用

☆ 広葉樹資源循環利用研究会

「岩手県の森林資源、素材生産の約3割を占める広葉樹林業の維持・拡大を通じ、岩手県における森林・林業再生プランの実践に寄与する」ことを目的に2011年に発足しました。

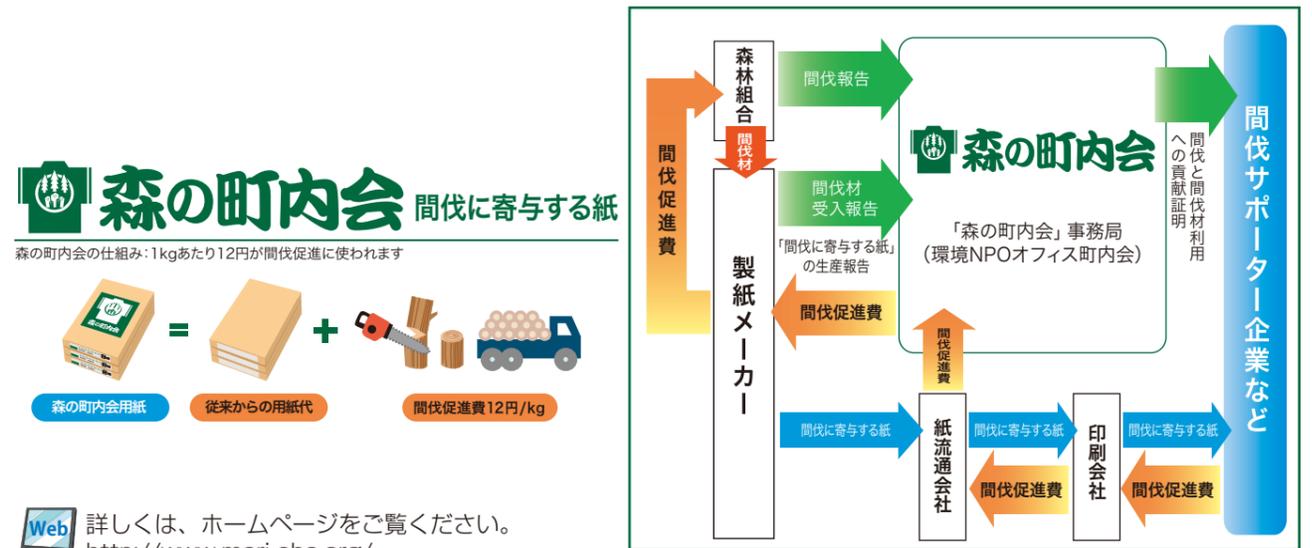
岩手県の林業再生のために、「広葉樹の立木価値の向上」、「育林・素材生産効率アップ」、「針葉樹・広葉樹のバランスの取れた林業」を目指し、課題解決に向けた取り組みを進めています。

- 主なメンバー：岩手県、岩手大学、森林総合研究所、北上ハイテクペーパー、新北菱林産
- 主な活動内容：広葉樹林における森林調査、広葉樹素材生産会社の労働状況・生産性の調査
ビジョンの構築と機能・目標設定、需要情報の発信、セミナーの開催

なお、この取り組みは林野庁の地域木材産業等連携支援事業に採択されています。

■ 間伐の促進と間伐材の利用推進

2006年よりオフィス町内会と協働で「森の町内会」活動に取り組んでいます。間伐費用の不足分を「間伐促進費」として「間伐に寄与する紙」を使用するユーザーに負担してもらい、経済的な理由で進まない間伐を促進する仕組みです。



詳しくは、ホームページをご覧ください。
<http://www.mori-cho.org/>

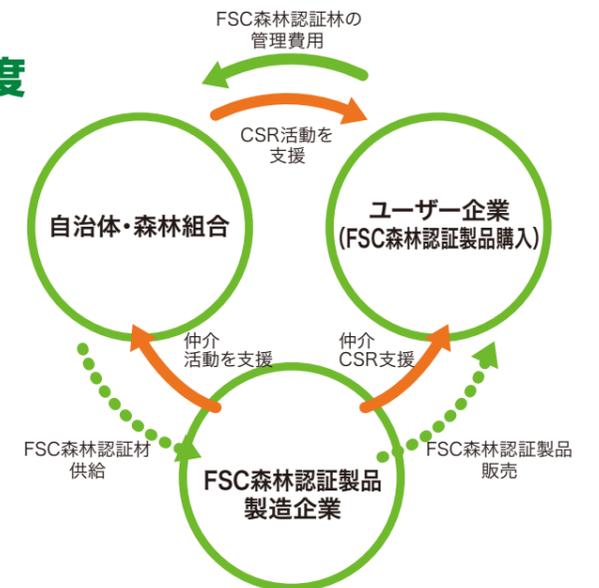
■ FSC® 森林認証の森サポーター制度

FSC 森林認証製品のユーザー企業が森林管理費用の一部を認証林に提供し、認証林の管理者（自治体）がその費用を使って環境および経済的に豊かな森をつくり、森づくりの過程で発生する木材を認証製品に利用する制度です。

岩手県岩泉町における三菱 UFJ 投信の森（MUAM の森）が最初です。

FSC認証を中心とした「Mori-smile」プロジェクト ▶ P7

詳しくは、三菱製紙ホームページをご覧ください。
<http://www.mpm.co.jp/fsc/forest/index.html>



■ FSC 森林認証材の地産地消への貢献

山梨県内で生まれた FSC 森林認証材を受け入れて、山梨県内の事業者向けに「やまなし森の紙」をオリジナルブランドとして生産販売しています。

2010年よりコピー用紙の生産を開始し、現在ではパンフレットやカタログに使用される印刷用紙にも広がっています。

FSC認証を中心とした「Mori-smile」プロジェクト ▶ P7



特集 環境・社会課題に向けた取り組み

3. 商品を通じた環境への貢献

三菱製紙グループでは、省エネ、省資源、化学物質管理、資源循環、地球温暖化、生物多様性などの環境負荷が低い商品（環境配慮商品）を提供することにより、環境への貢献を図っています。



責任ある森林管理のマーク

■ 広がる「FSC®森林認証紙」

種類は、印刷用紙、コピー用紙、パンフレット、カレンダー、ポストカード、飲料容器、紙袋などさまざまです。

最近では、紙における調達の方針を各企業が定め、従来から利用が進んでいた環境報告書やCSRレポートに加え、雑誌や広報誌などの定期刊行物や、地方自治体の印刷物に、FSC森林認証紙が採用されるようになってきました。

FSC森林認証制度について ▶ P6



詳しくは、三菱製紙ホームページをご覧ください。
<http://www.mpm.co.jp/fsc/about/fsc-ex.html>

■ 「FSC®森林認証紙」にできること

◎消費者は、FSC森林認証品を購入することで、間接的に適切な森林管理を支援できます。

◎FSC認証を拡げることは、持続可能な社会への実現に寄与します。

◎企業の社会的責任（CSR）として、貢献します。（違法伐採の排除・循環型社会への貢献・トレーサビリティの確保）

FSC認証を中心とした「Mori-smile」プロジェクト ▶ P7



詳しくは、三菱製紙ホームページをご覧ください。
<http://www.mpm.co.jp/fsc/about/merit.html>



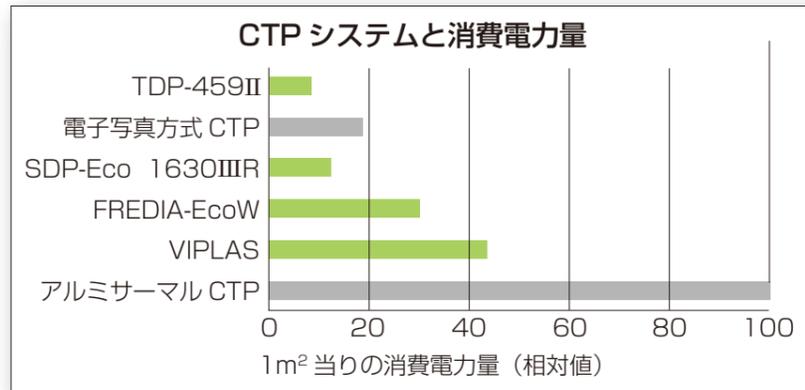
■ コンパクトでドライな CTP・CTF システム “サーマルディジプレートシステム”

サーマルディジプレートは、平版印刷版と製版フィルムの両方を出力できる世界初の完全プロセスレスシステムです。感熱ヘッドによる直接感熱方式なので、シャープな画像が出力できます。また、他の出力方式に比べて省エネルギーでコンパクトなシステムであり、さらに、現像処理液はもちろんインクリボンやトナーを使用しないため、環境負荷の低減に貢献します。

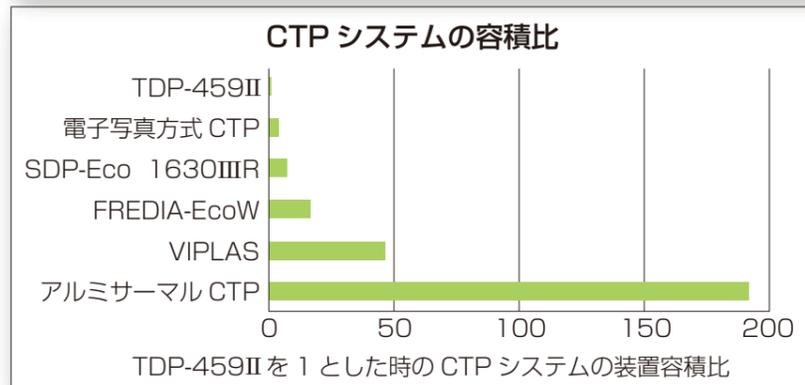


☆ サーマルディジプレートシステムの特徴

・省エネルギー
他方式に比べて省電力です。



・省スペース
他方式に比べて装置が小さく、場所を取りません。



Web 詳しくは、三菱製紙ホームページをご覧ください。 <http://www.mpm.co.jp/ga/ctp/tdp-459II/index.html>

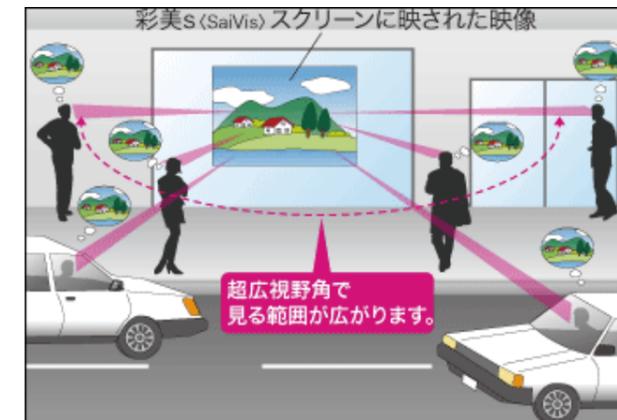
■ 両面どこからでも見やすいスクリーン“彩美s<SaiVis>”

彩美s<SaiVis>は、広い視野角であり、短焦点プロジェクターにも対応でき、高輝度、高精細な画像を映し出すスクリーンフィルムです。プロジェクターからの光をあらゆる角度に均一に散乱させることができ、広い視野角を生み出しています。

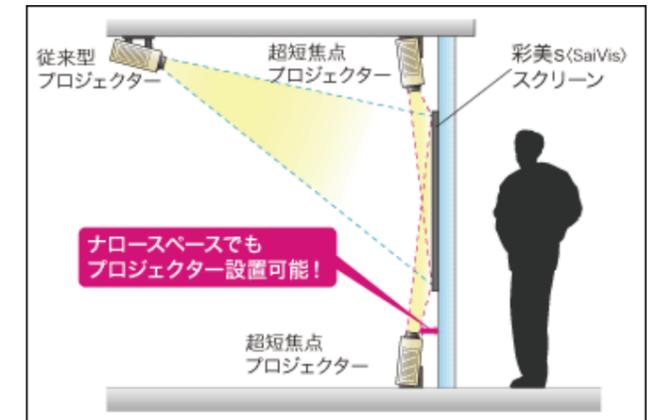


☆ 特長

・360°の超広視野角



・超短焦点のプロジェクターにも対応



☆ 自動車販売店での使用例



Web 詳しくは、三菱製紙ホームページをご覧ください。 <http://www.mpm.co.jp/ga/saivis/index.html>

■ エアフィルター

「エアフィルター」の役割とは、空気清浄機、エアコンなどの空調機器内を通過する空気中のほこり・ちりや臭気・有害物質を除去し、清潔な環境を提供することです。

三菱製紙は、独自の技術によってさまざまな材・材料を開発し、フィルターに組み立てるまでの一貫生産により、家庭用電化製品、自動車、業務用空調機器などさまざまな分野に展開しています。

☆ 高性能活性炭充填フィルター

樹脂製や紙製の枠材の中に粒状の活性炭を充填しています。長年のノウハウを活かし、少量の活性炭でも優れた脱臭性能が得られるため、活性炭の原材料である石炭やヤシ殻の使用量の削減にも役立っています。



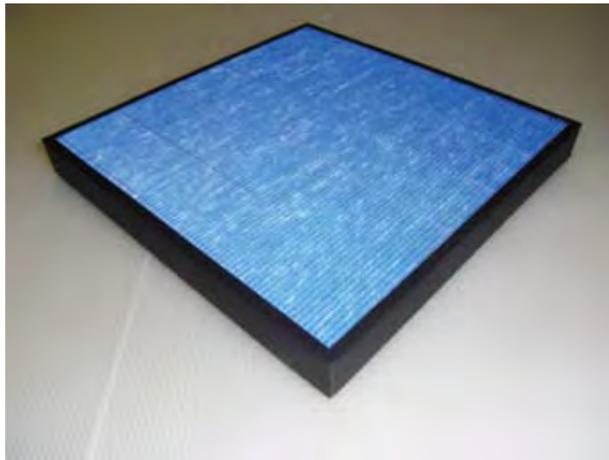
高性能活性炭充填フィルター

☆ 多機能 PM2.5 対応フィルター

永久帯電した極細繊維層とイチヨウ葉エキスを染込ませた層を貼り合わせた 2 層構造のろ材を蛇腹状に加工しています。

極細繊維層で PM2.5 を捕集し、イチヨウ葉エキスでインフルエンザウイルスやアレルギー物質を低減できる健康志向のフィルターです。

空気清浄機用高性能除じんフィルターや自動車用キャビンフィルターに幅広く使われています。



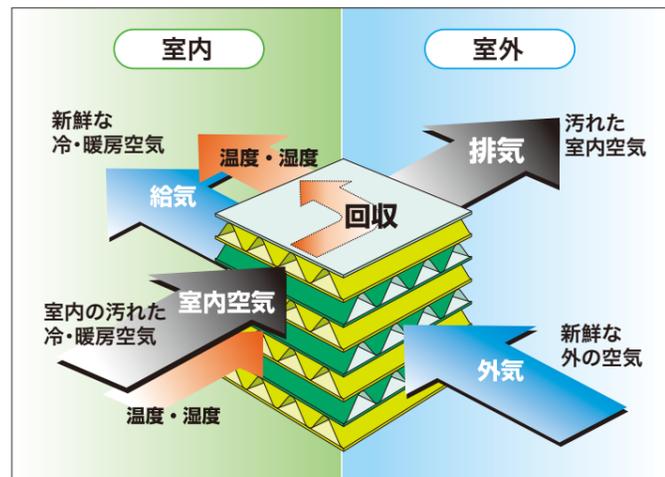
多機能 PM2.5 対応フィルター

☆ 全熱交換エレメント

全熱交換器とは排出される熱や湿度を室内に回収する省エネ装置です。その心臓部となるのが、全熱交換エレメントです。独自技術による特殊薄膜用紙が原材料です。温度・湿度の交換効率が極めて高く、業界最高水準の省エネ性能を実現し、CO₂排出量の削減に役立っています。



全熱交換エレメント



概略図と原理

詳しくは、三菱製紙ホームページをご覧ください。 <http://www.k-mpm.com/filter/>

■ RO膜支持体

RO (Reverse Osmosis : 逆浸透) 膜は、海水淡水化や浄水器に用いられる分離膜で、水は通すがイオンや菌を通さないという性質を持つ膜です。三菱製紙は、RO膜を製造する際の支持体を製造・販売しており、きれいな水の供給に貢献しています。



膜の種類	分離膜の種類と分離対象物質						
	(A)	1	10	10 ²	10 ³	10 ⁴	10 ⁵
寸法 (m)	10 ⁻¹⁰	10 ⁻⁹	10 ⁻⁸	10 ⁻⁷	10 ⁻⁶	10 ⁻⁵	10 ⁻⁵
分離対象物質	(イオン類) H ₂ O, Cl ⁻ , Na ⁺ , OH ⁻ , K ⁺ , Ca ²⁺ , トリハロメタン		(タンパク質) シュクロース, ビタミンB, インスリン, フトクロムC, ペプシン, アルブミン, γ-グロブリン		(ウイルス) 小児まひ, 日本脳炎		(バクテリア) 大腸菌, 赤痢菌, インフルエンザ, 天然痘

■ 電池セパレータ

電池セパレータとは、電池の正極と負極の間で両極の接触防止（ショート防止）の役割を果たすものです。また、イオンの輸送を担う電解液を保持する役割もあります。三菱製紙では、各種二次電池（繰り返し充放電して使用できる電池）向けにさまざまなタイプのセパレータを販売しています。

☆ リチウムイオン電池 (LIB) 用セパレータ

大きなエネルギーを蓄積した LIB の安全性向上のため、より耐熱性の高いセパレータの開発を目指しています。当社で行った実験におきまして、三菱製紙の不織布セパレータの高い安全性が確認されました。



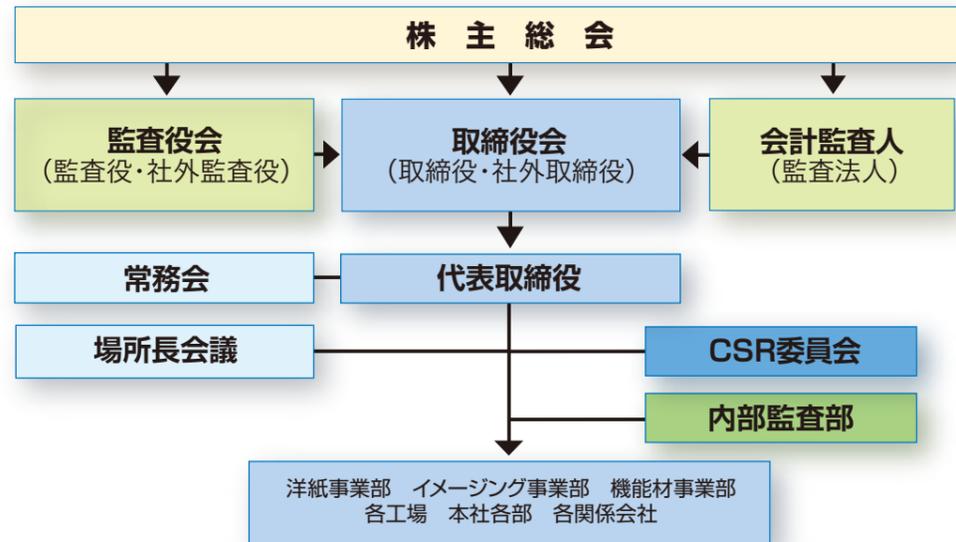
詳しくは、三菱製紙ホームページをご覧ください。 <http://www.mpm.co.jp/sepa/index.html>

コーポレート・ガバナンス (※組織統治)

三菱製紙グループは、経営内容の透明性を高めガラス張りの経営を行うため、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の最重要施策の1つと認識し、企業としての社会的責任（CSR）を重視した経営を積極的に推進します。

■ 会社の機関の概要

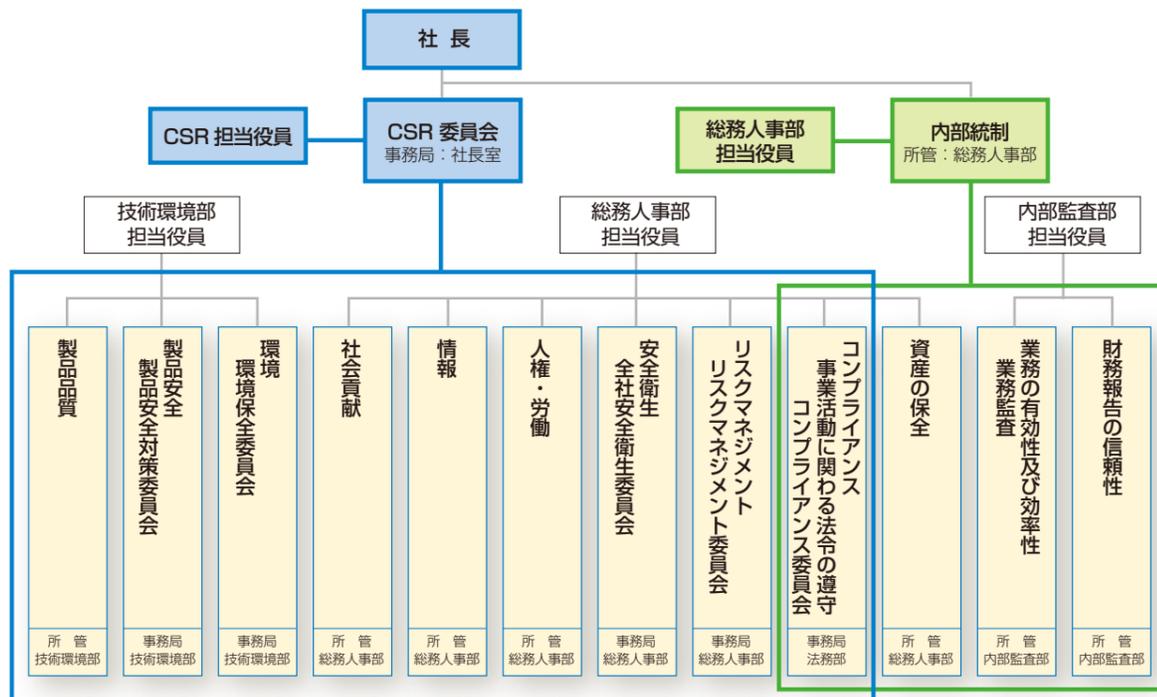
三菱製紙は、監督と執行を分離し、取締役会のスリム化と経営の意思決定のスピードアップを図るため、執行役員制を導入しています。



詳しくは、三菱製紙ホームページをご覧ください。
<http://www.mpm.co.jp/env/report-index.html>

■ CSR 推進体制

社長を委員長とする三菱製紙グループの CSR 委員会は組織横断的機関であり、9 つの CSR 活動（コンプライアンス、リスクマネジメント、安全衛生、環境、製品安全、製品品質、人権・労働、情報、社会貢献）全体を把握し、CSR 全体の基本方針、年間計画の策定を行い、年間計画ならびに実績を取締役会で定期的に審議・報告しています。



☆ CSR 教育

2009 年度より毎年、国内グループ全社員を対象に CSR 教育を実施し、CSR 活動の理解と啓発に努めています。

■ コンプライアンス

社会から信頼される健全で公正な企業であるための最低条件としてコンプライアンスを重視した経営を実践しています。三菱製紙グループ社員は「三菱製紙グループ企業行動憲章 P37 参照」（2007 年 1 月制定）を常時カードで携帯します。日常業務において遵守すべき基本的事項を「三菱製紙コンプライアンス行動基準」として定め、経営者から従業員まで法令遵守を徹底しています。



携帯用カード

☆ コンプライアンス研修

国内の全社員を対象に、コンプライアンス研修を実施しています。関連会社も含めた全部課の管理者が専門の講師による教育を受講し、それを各職場に持ち帰り自らの手によって自職場で全員に対して研修する手法でグループ全体に展開しています。

2013 年度は、過去の三菱製紙グループの不祥事等をもとに作成した題材を使ったケース・スタディを実施しました。

VOICE

コンプライアンスリスクへの対処は、企業の社会的責任から一層重要な課題になっています。三菱製紙グループとは 10 年以上お付き合いをさせていただいておりますが、毎年対話方式での全社員教育を行うなど、他社と比べても熱心な活動をされています。望ましい組織風土の醸成につながっていると感じておりますので、この体制は是非維持して欲しいと思っています。

株式会社ビジネスコンサルタント
岡部寿也氏



■ リスクマネジメント

企業活動を展開していく上で生じるさまざまなリスクに的確に対応していくことが、企業の存続と企業価値の向上に重要であると認識しています。

主要なリスクに対しては次のとおり対応し、遵法および企業倫理に基づく行動の徹底を図っています。

法令違反のリスク

「三菱製紙グループ行動規範」(P37 参照)
コンプライアンス委員会を年 2 回開催

安全衛生面のリスク

「全社安全衛生管理要綱」(P39 参照)
工場等で安全衛生委員会を毎月開催
全社安全衛生委員会を年 1 回開催

環境面のリスク

「環境憲章」(P37 参照)
工場等で環境保全委員会を毎月開催
全社環境保全委員会を年 1 回開催

製品安全面のリスク

「製品安全憲章」(P37 参照)
製品安全対策委員会を年 2 回開催
工場監査を年 1 回実施

■ 株主・投資家とのかかわり

三菱製紙では、「広報・IR 室」を設置して、対外情報公開の基本方針として策定された「情報開示方針（ディスクロージャーポリシー）」（P40 参照）を維持運営するとともに広報連絡会を開催し、三菱製紙グループ全体の情報開示を管理しています。

☆ 情報開示とコミュニケーション

三菱製紙グループの企業価値を適正に評価していただくため、ステークホルダーである株主・投資家の皆様に対する IR 活動（Investor Relations：投資家広報）として、機関投資家や証券アナリストの皆様への決算経営説明会を継続的に行っています。

さらに、フェアディスクロージャーの観点から、適時開示情報、プレスリリース、新製品等について、発表とともにホームページに掲載しています。



アナリスト説明会

株主とのコミュニケーション

定時株主総会においては、事業報告についてビジュアル化やナレーションを取り入れるなど、株主の皆様三菱製紙をよりご理解いただけるよう心掛けています。また、より多くの皆様に議決権を行使いただくために、招集通知の早期発送に努めています。

☆ 情報開示の充実

「簡潔でわかりやすい情報伝達」を実現するために、三菱製紙ホームページではサイト来訪者ごとの想定ニーズを整理し、コンテンツ分類を見直しました。さらに、英文ページ見直しや検索エンジン導入も行っています。

IR 情報サイトについて

三菱製紙ホームページに IR 情報サイトを開設しています。業績ハイライト、IR カレンダー、IR ライブラリー（決算短信、有価証券報告書、アニュアルレポート（英文）、決算経営報告資料、中期経営計画）株主総会関連資料、株式情報などを提供し、情報発信に努めています。



公正な事業慣行（※公正な事業慣行）

三菱製紙グループでは、「三菱製紙グループ企業行動憲章」（P37 参照）に則り、社会に対して責任ある倫理行動を推進しています。

■ 下請法

三菱製紙および関連会社の下請法上の親事業者に当たる立場になることが少なくありません。公正に下請取引が行われるよう、内部監査等を実施するとともに、社員の知識と理解を深めるため、社内報を用いた周知活動等を実施しています。

■ 公正な競争

「いかなる状況であっても、カルテルや談合、再販売価格の拘束、優越的地位の濫用など、独占禁止法に違反する行為を行ってはならない」ことをコンプライアンス行動基準に規定し、公正で自由な企業間競争を行います。

競争法に関する知識を習得し業務の現場で適切な行動を取ることができるよう「独占禁止法遵守マニュアル」を刷新し、隔月発行のコンプライアンス・ニュースで最近の国際カルテルの違反状況を取り上げるなど、社員の意識の高揚に努めています。

■ 汚職防止

社会の腐敗につながるような営業活動をするのしないよう、公務員（準公務員含む）に対する接待・贈答は行わないこと、外国政府・公共団体の役員に対する利益供与等を行わないことを「コンプライアンス行動基準」に規定しています。

■ 合法性および適正管理の確認方法

FSC® 森林認証紙を生産する際の本材チップおよび木材パルプは、次のいずれかの方法で合法かつ適正に管理された森林からの木材に由来することを確認しています。

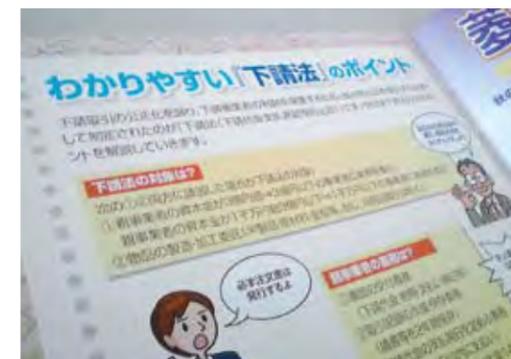
1. 森林認証制度および COC 認証制度を活用した証明方法（FSC 森林認証材、FSC 管理木材）
 2. 個別企業等の独自の取り組みによる証明方法（管理木材）
 - 2 では木材が「FSC 管理木材の規格（FSC-STD-40-005（V2-1）」に従って管理されていることを確認しています。
- なお、確認は次の方法で行っています。

◎木材チップ原産地の確認

- ・トレーサビリティレポートで原産地、木材の種類、森林の管理方法等を把握する
- ・原産地を証明する書類（輸送や売買に関する書類等）を確認する
- ・供給業者の監査を定期的に行い、書類の信頼性を確保する

◎リスク評価

- ・木材の原産地が下記 A) ~ E) に関して低リスクであることを評価・確認する
 - A) 違法伐採
 - B) 伝統的権利および市民権の侵害
 - C) 保護価値の高い森林への脅威
 - D) 人工林や森林以外の用途への天然林の転換
 - E) 遺伝子組み換え樹木
- ・リスク評価の結果について FSC 認証機関の監査を受ける



環境とのかかわり (※環境)

三菱製紙グループは、地球環境の保全、循環型社会の構築に積極的に貢献できる企業グループを目指しており、地球温暖化防止ならびに生物多様性保全に努めるとともに、森林資源の持続可能な利用を通じて、皆様からの信頼に応えるべく努力します。

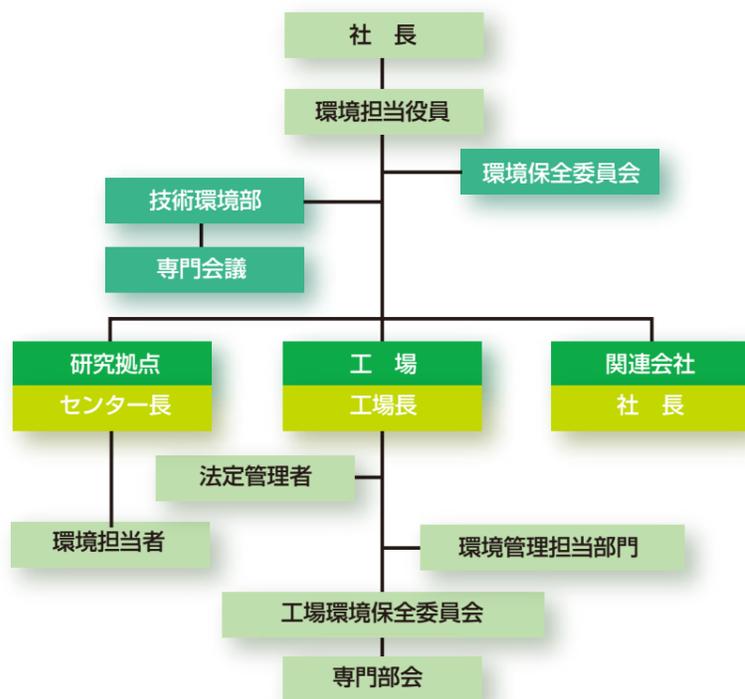
2013年度は、2005年度比で約17%のCO₂削減となり、それに伴って化石エネルギーも大きく削減することができました。日本政策投資銀行から2年連続して環境格付の最高ランクを取得しました。

■ 環境管理体制

環境憲章 (P37 参照) の基本理念、基本方針を具体的に推進するための自主的取り組み体制を構築しています。

ISO14001 認証は、2013年10月に白河事業所が取得し、三菱製紙の全ての工場および事業所が取得しました。

環境監査については、主要工場に対して年1回社内環境監査を実施しており、環境パフォーマンスの状況について、本社部門によるチェックが行われています。

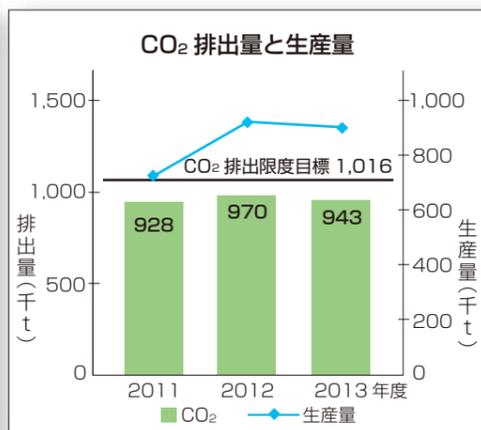
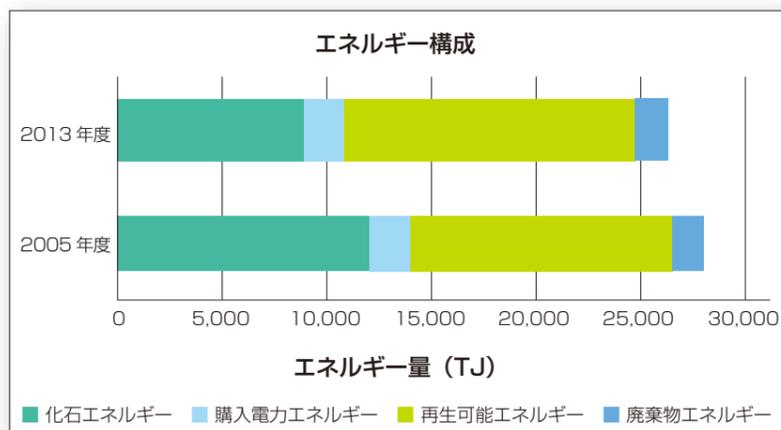


■ 地球温暖化防止

☆ 製造部門での取り組み

○ 化石エネルギーの削減

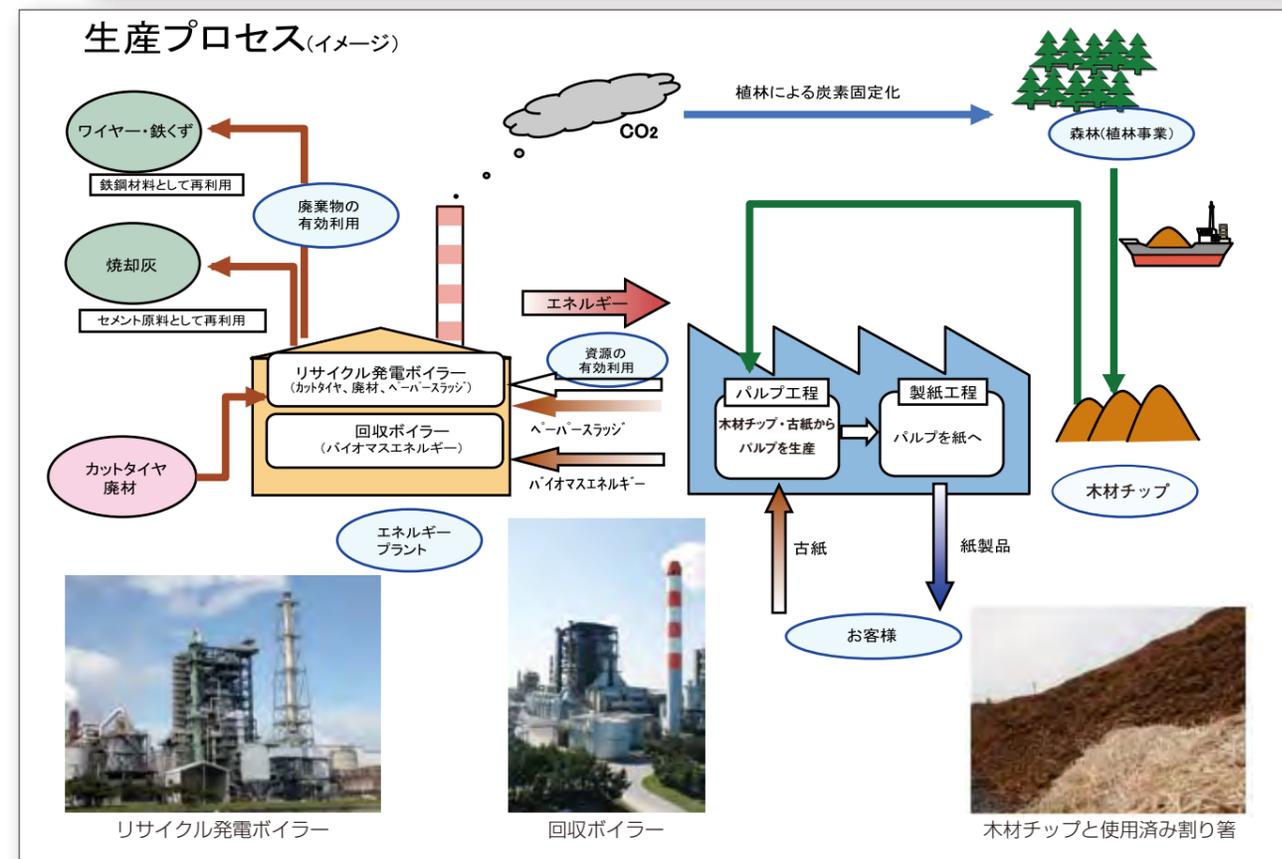
三菱製紙グループでは、「2015年度までにCO₂排出量を1,016千トン以下にする」という目標を設定し、化石エネルギー由来のCO₂排出量削減に取り組んでいます。2013年度CO₂排出量は943千トンで、目標をクリアしました。エネルギー構成比で見ても、2005年度に比べて化石エネルギー量の割合が大きく減少しています。



○ 回収ボイラーとリサイクル発電ボイラー

三菱製紙では、パルプ・紙の製造過程で発生する黒液※1や廃棄物（ペーパースラッジ）からもエネルギーを得ています。黒液は回収ボイラーで燃焼し、熱エネルギーと薬液を回収します。ペーパースラッジはカットタイヤや廃木材等と共にリサイクル発電ボイラーで燃料として活用しています。廃棄物の有効利用により、最終処分量を削減し、同時に化石燃料の使用量削減につなげています。

※1 黒液:木材チップからパルプをつくるときに発生する黒っぽい液体。パルプ化の際に使用された薬液と木材チップから除去されたリグニンなどの混合液。薬液は回収して再利用。



○ 天然ガスコージェネレーション設備

KJ特殊紙では、エネルギー使用合理化と富士市煙突ゼロ化推進を目的としてコージェネレーション設備を導入しました。燃料をA重油から都市ガスに転換したことで、2013年度はCO₂排出量を2004年度比で約28%削減しています。



天然ガスコージェネレーション設備

☆ 物流部門での取り組み

○ グリーンエコプロジェクト※2

浪速通運では運行管理データ活用によるエコドライブの啓発・省エネ型機材の導入などさまざまな取り組みを行っています。グリーンエコプロジェクトの参加により、管理者・ドライバーの社会的責任に対する意識が高まりました。

※2 グリーンエコプロジェクト:東京都トラック協会がエコドライブ推進を目的として2006年に発足。2006~2012年の7年間でCO₂換算44千トン削減。2013年現在、全国で532社・約12千台が参加。

○ エコレールマーク

エコレールマーク制度は、地球環境に優しい鉄道貨物輸送を一定以上利用している商品または企業に対して、エコレールマークの認定を行い、マークの表示によって消費者に判断基準を提供する制度です。

三菱製紙は 2010 年 10 月に製紙業界で初めてエコレールマーク認定を取得しました。エコレールマークの普及を通じて、流通過程における地球環境問題に貢献しています。



☆ オフィス部門での取り組み

○ オフィスビルの節電

オフィス部門では、ビルの節電に取り組んでいます。グラフは三菱製紙グループ本社ビル、三菱製紙販売（本店、大阪支店）ビルの合計電力使用量です。



○ デマンド装置による電力使用量監視

つくば R&D センターでは、夏季および冬季の最大需要電力を抑えるため、事務室内にデマンド監視装置を取り付け全員で使用電力のチェックを実施しています。使用電力 370kw 以下が目標です。



デマンド監視装置

☆ 家庭での取り組み

○ 環境家計簿

三菱製紙グループでは、2010 年 6 月より環境家計簿による家庭での CO₂ 排出削減に取り組んでいます。環境家計簿は家庭での CO₂ 排出量を手軽に計算できるツールで、これを活用することで日常生活を見直し、CO₂ の排出を減らす行動につながる事が期待されます。

トピックス

DBJ 環境格付で 2 年連続最高ランクを取得

三菱製紙は、日本政策投資銀行 (DBJ) から 2 年連続で環境格付の最高ランクを取得しました。

- (1) アセスメントを行い、事業と生態系サービスの関係性把握を精緻化
- (2) 事業が自然資本へ与える影響をサプライチェーンまで含めて把握
- (3) 木材チップ・木材パルプ全てについて持続可能性の確認体制を整備等が高く評価されました。



当社は、2014 年 3 月日本政策投資銀行 (DBJ) より環境格付融資を受け、格付結果は「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」と評価されました。

■ 生物多様性保全

☆ 植林会社での取り組み

チリのフォレストアル・ティエラ・チレーナ社はユーカリ植林を事業目的とした会社ですが、生物多様性の保全には力を入れています。

具体的には、社有林内の希少樹種ケウレを保護するため、その周りにはユーカリを植えず、ケウレの種を採取しその増殖に努めています。

また、ユーカリの森に混生するローズヒップ※1 や木イチゴ、ナルカ※2 などは近隣の人たちに採集してもらうなどしながら、ユーカリの森の自然を大切にしています。



ローズヒップ



ナルカ



希少樹種ケウレ

- ※1 ビタミン C やビタミン E を豊富に含み、化粧水、ジャムやハーブティーの原料として利用されます。
- ※2 水分を多く含む茎が食べられます。夏の風物詩として道端や市場で売られています。

☆ 企業と生物多様性イニシアティブへの参加

企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB) は生物多様性の保全を目指して積極的に行動する企業の集まりで、国際的な視点から生物多様性の保全に関する共同研究を実施し、その成果を元に他の企業やステークホルダーとの対話を図ることで、真に生物多様性の保全に貢献する活動を展開しています。

三菱製紙は 2011 年度より JBIB の活動に参加し、環境先進企業各社と交流を深めながら、企業が CSR の一環として取り組む「生物多様性に配慮した森林保全活動」、「生物多様性に配慮した原材料調達」に関するガイドラインの共同研究と開発等を行っています。

☆ 森林資源の持続的可能な利用

○ 森林資源の保護と育成

「伐ったら植える、そして手入れする」チリの植林事業ではおよそ 12 年毎にこの作業を繰り返し、森林資源を循環させています。1 年におよそ人の背丈ほど伸びるユーカリの植林を通じて、三菱製紙グループの持続可能な木材調達を支えています。

■ エコシステムアカデミー

“森のめぐみと自然・産業のコラボレーション”をテーマに、森から木を使ったものづくりまでを視野に入れた環境教育です。FSC®森林認証林を活用した「体験型学習」「環境セミナー」と「森の調査・研究」を柱に活動しています。2013年度から「企業の森」も発足させました。

FSC認証を中心とした「Mori-smile」プロジェクト ▶ P7

☆ 体験型学習

2013年度も多くの方が「エコシステムアカデミー」（福島県西郷村）に訪れました。『森のめぐみ』について学習し、手すきのはがき作り、野外活動を体験されました。



西郷村羽太小学校の5・6年生



白河市ソフトテニススポーツ少年団

☆ 環境セミナー

2013年11月に三菱製紙と日本野鳥の会とのコラボレーションで本社ギャラリーにて特別展示を行い、そのオープニングセレモニーとして「エコシステムアカデミー環境セミナー2013」を開催しました。



日本野鳥の会 松田理事



安西主席研究員

○ ミニセミナー

東日本大震災の影響で延期となっていた東京大学丹下教授の環境セミナーですが、2013年8月に「ミニセミナー」としてエコシステムアカデミーのビジターセンターで開催しました。

『森林の物質生産と環境保全』をテーマに、ご講演していただきました。



☆ 森の調査・研究

森の調査として福島県西郷村の社有林で定点カメラの観察、野鳥調査、植生調査を行っています。これまでに熊の爪跡、シカやウサギのフン、25種類の野鳥、14種類の木の実生等多様な生物を確認することができました。

○ 定点カメラの観察

2011年3月に設置しました。それ以降、四季の変化を映し出しています。



5月



8月



11月



2月

○ 野鳥観察

日本野鳥の会白河のご協力をいただき野鳥の観察を行っています。これまでに25種類が観察されました。主なものは次のとおりです。

アカゲラ、ウグイス、オオルリ、キビタキ、クロツグミ、コゲラ、ゴジュウカラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ヒガラ、ホトトギス



キビタキ

○ 植生調査

間伐、未間伐等さまざまな条件でのアカマツ実生の生育を1m四方の標準地各2カ所で春・夏・秋の3回、2010年より調査を継続しています。

4年生まで生長したのは約1割でした。13種類の樹木が確認されましたが、主なものは次のとおりです。

サクラ、クリ、モミジ、シデ、イタヤカエデ、ムラサキシキブ、キイチゴ、ニワトコ、サンショウ



単位：本

調査標準地	アカマツ実生	2010年		2013年	
		a	b	a	b
間伐 (地拵え※)	1年生	19	18	3	1
	2年生			10	6
	3年生			7	0
	4年生			1	0
間伐 (地拵え無)	1年生	5	6	30	1
	2年生			13	8
	3年生			0	13
	4年生			0	3
未間伐	1年生	0	0	0	0

※地拵え(じごしらえ)：植林のための整地

○ 野鳥による生物多様性に富んだ森づくり検討委員会

委員長の立教大学上田教授をはじめ、日本野鳥の会佐藤理事長、同松田理事、森林総合研究所の方々も植樹・萌芽更新・実生による更新のほか、森の再生に野鳥がどうかかわっているのか等の予備調査を行うため、福島県西郷村の社有林を訪問されました。



☆ “七戸社有林企業の森” 発足

新たな取り組みとして「企業の森」を発足させました。七戸社有林（青森県七戸町）291haの一部を活用し、工場見学とセットで、FSC®森林管理の学習や植林から育林までの体験学習を行う場をお客様に提供する取り組みです。



■ 資源の循環利用と廃棄物の有効利用

☆ 古紙の有効利用

三菱製紙では、1991年八戸工場に古紙プラントを設置、その後、増産改造を実施し今日に至っています。

古紙プラントの原料には、首都圏や地元周辺で発生した模造古紙、色上古紙等を主に使用しています。



古紙プラント

☆ 古紙パルプ配合率検証制度

2008年夏より古紙パルプ配合製品の適正な製造管理を行うため、八戸工場と高砂工場で古紙パルプ配合率検証制度の運用をスタートしました。

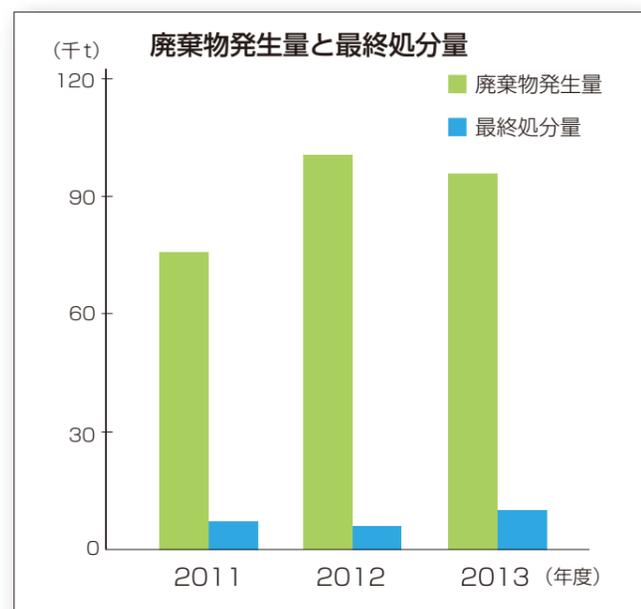
検証制度の厳正な運用を確保するため、2008年より社内監査、2009年より外部監査を取り入れて運用しています。また、日本製紙連合会の検証制度チェックリストに基づく、お客様の立会い検査が、2013年度には八戸工場において3件実施されました。

☆ 廃棄物の再資源化

八戸工場で発生する廃棄物は、セメント原料として有効活用しています。近隣にはセメント工場が複数あり、セメント原料化が廃棄物有効利用の主要な手段となっています。

三菱製紙グループ全体での廃棄物の過去5年間の平均有効利用率は93%以上です。さらに、廃棄物の利用率高めることを課題の一つとし、廃棄物ボイラー焼却灰の路盤改良材等への活用を検討しています。

(集計範囲：三菱製紙、グループ製造会社5社)



☆ スイートソルガムからの紙の製造

東邦特殊パルプでは、茨城大学(研究代表者：新田洋司農学部教授)と共同で、バイオ燃料作物スイートソルガム(別名：サトウモロコシ)の残渣を有効利用した、パルプ・抄紙化の検討を行っています。



スイートソルガムの残渣



スイートソルガムの残渣から作った封筒

従業員とのかかわり (※人権、※労働)

三菱製紙グループでは、「人権・労働に関する理念と指針」(P39参照)に基づき、従業員ひとりひとりが持てる能力をフルに発揮し、働きやすく充実感を持てる職場環境を作り続けていけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

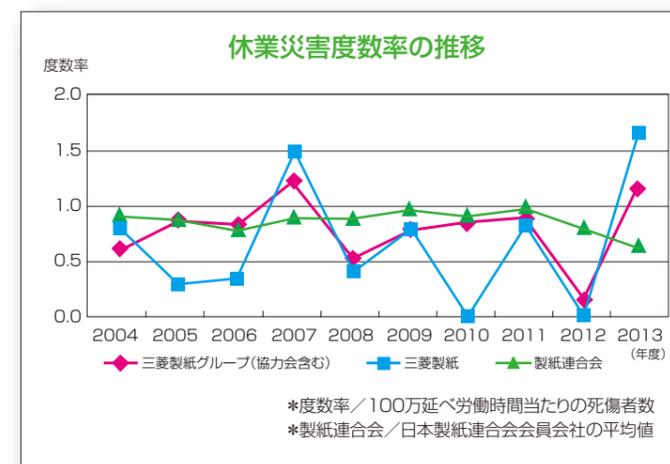
2013年度の安全成績はグループ全体で休業災害8件(前年3件)、不働災害5件(前年8件)と、休業・不働災害を合わせて20件を超えていた一昨年までと比べると大幅に改善されましたが、前年に比べ休業災害が増加するなど良い成績ではありませんでした。

■ 労働安全衛生の取り組みについて

安全衛生の基本理念を盛り込んだ「全社安全衛生管理要綱」(P39参照)に基づき、CSRの観点からも当社グループ全体で継続的に推進しています。

【2013年度の実績】

前年に引き続き「不安全行動災害の撲滅に向けた取り組み強化」を掲げ、草の根安全や職場巡視の強化など各場所で工夫した取り組みを展開した結果、三菱製紙グループで管理しているグループ事業場以外での災害も含めた件数は前年ほぼ横ばいでしたが、三菱製紙本体の休業災害が増加し、休業度数率は製紙連合会の平均を上回ってしまいました。



職場巡視の状況(白河事業所)



体感教育：パルプ挟まれ(KJ特殊紙)



体感教育：安全帯ぶら下がり(北上ハイテクペーパー)

☆ コミュニケーション上手になろう

不安全行動災害が後を絶たない要因の一つに、コミュニケーションが不足している現状を踏まえ、「コミュニケーション上手になろう」と題した基本マニュアルを作成し、各工場や集合教育などで活用し、活気ある職場作りを目指して展開を図っています。



☆ 大規模災害時の訓練

東日本大震災を教訓に、大規模災害発生時の行動マニュアルや緊急連絡網、備蓄品等の見直しを行い、より一層従業員の安全・安心を確保できるようにしました。

また、緊急時の安否確認体制を再構築するとともに年間数回の訓練を行いました。

本社は、東京都帰宅困難者対策条例に基づき、「地震など対応マニュアル」を見直し、帰宅抑制策や備蓄体制の整備を実施しました。



総合防災訓練－けが人の救護（エム・ピー・エム・オペレーション）



消火訓練（京都工場）

☆ 協力会分科会の拡大

これまでの年1回（12月）の開催から、6月に関西方面、12月に東北方面と地域毎に分けて年2回開催し、多くの方が参加され分科会形式で本音での意見交換ができ、非常に有意義でした。

☆ 取り組みの成果

第53回全国紙パルプ安全衛生大会安全表彰受賞

安全優秀賞第1種	三菱製紙	白河事業所
安全優良賞	三菱製紙	八戸工場協力会

■ 働きやすい職場づくりに向けて

働きやすい職場づくりやワークライフバランスの追求が、個々人の健康で豊かな生活をもたらすだけでなく、会社の競争力強化にもつながり、より活発的で働き甲斐のある企業グループとしていくことができるという観点から、さまざまな施策を実施・検討しています。

☆ 長時間労働の防止による従業員の健康保持

労働時間管理システムにより、出退勤記録から計算した在社時間を客観的に把握、管理しております。勤務時間の長い従業員には業務見直しや業務分担変更の働きかけ等を行い、健康への影響を防止しています。

☆ ハラスメント規則の制定、相談窓口の設置

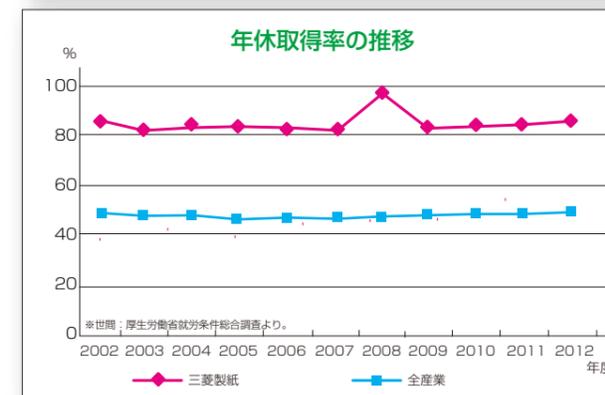
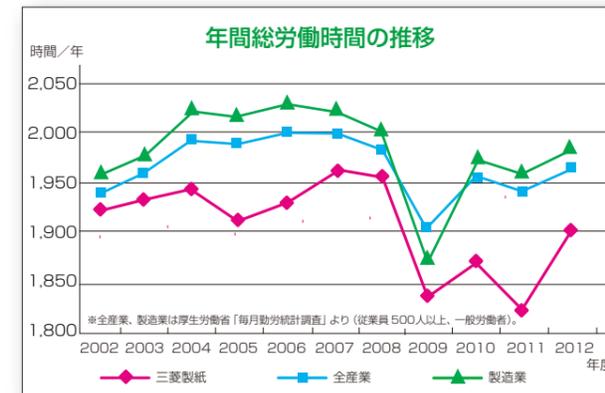
各種ハラスメントに関する規則を制定し、ハラスメントの発生を未然に防ぐとともに、発生してしまった場合の対応策や人的ケアについて体制を整備しています。



ICカードによる出退勤の記録

☆ 労働組合と共同での定期的な制度点検

賃金、退職金実態、年次有給休暇取得状況、労働時間実績、再雇用状況、育児・介護関連休暇取得状況、その他人事諸制度の運用実態について、労働組合との専門委員会で定期的に点検・確認しており、より良い制度作りのために労使で議論しています。

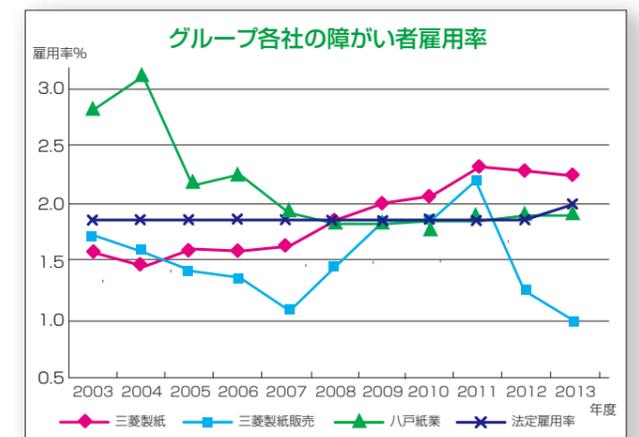


☆ 定期的なメンタル健診と外部相談窓口

外部EAPによる定期的なメンタルヘルス健診「ココロの健康診断」を実施するとともに、メンタルヘルスの外部相談窓口を設置することで、メンタル不全の防止と早期解消を推進しています。

☆ 障がい者雇用率について

三菱製紙本体を含めた主要グループ会社の障がい者雇用率の推移は次のとおりです。2013年4月1日より法定雇用率が2.0%になり、引き続き雇用率の向上に向けて取り組んでいます。



詳しくは、三菱製紙ホームページをご覧ください。
<http://www.mpm.co.jp/env/report-index.html>

VOICE

グローバル研修プログラムを体験して

ドイツのビーレフェルトにある工場で、主に現地スタッフとのコミュニケーションや仕事の進め方を学びました。日本では想定できない出来事で仕事の進捗が左右され、異文化環境で仕事を進めることの難しさと現地状況理解の重要性を強く感じました。

(現 機能材事業部 フィルター商品部 勝又典亮 記)



研修地スタッフと打合せ

研修を通じて語学はもちろん、働き方や仕事の取り組み姿勢の違いやスピード感、コミュニケーションで苦労しましたが、フランクな空気の中でお互いを尊重しています。その中で異文化理解や多様性受容などとともに自国文化理解についても成長できたと実感しています。

(現 京都工場 技術部 竹井光一 記)



ユトランド半島横断駅伝に参加

お客様とのかかわり (※消費者に関する課題)

お客様に安心して使っていただける製品を提供するために、三菱製紙では「製品安全憲章」(P37 参照)を制定し、製品の安全性を向上させる取り組みを進めています。

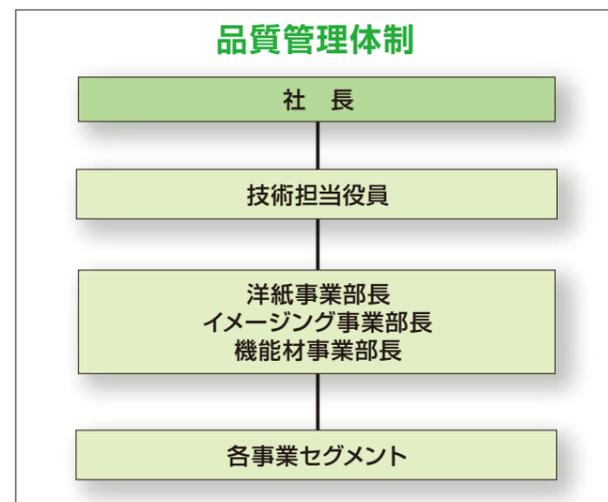
品質管理体制

各工場において工場長を品質管理統括者とする品質管理システムを構築しており、お客様からの情報や品質に関する問題に迅速に対応できる体制を整えています。

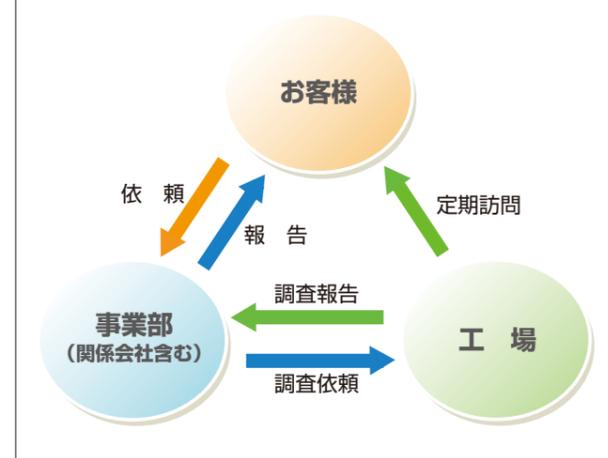
ISO9001

三菱製紙の全ての工場(八戸工場、京都工場、高砂工場)およびプレスボード事業室(白河事業所)、北上ハイテクペーパー、KJ 特殊紙、東邦特殊パルプ、オストリッチダイヤ、三菱製紙エンジニアリング、三菱ハイテクペーパーヨーロッパでISO9001を認証取得しています。

今後とも製品の品質維持・向上に向けて、常に努力を続けていきます。



製品・サービスの品質保証体制



製品安全管理体制

製品安全の具体的な活動を積極的に推進するため、製品安全対策委員会のもとに製品安全対策小委員会および製品安全性判定委員会を設置しています。「製品安全規定」を設定し、厳格な管理を行っています。

化学物質管理についても「化学物質管理指針」および「グリーン調達ガイドライン」(P38 参照)を設定し、使用原材料から製品含有化学物質まで厳格な管理を実施しています。



ユーザーニーズを反映したCS向上

2012年度に東日本大震災でお客様にご迷惑をお掛けしたことを機に、CS向上につながるサービスの開発・提供を目指しアイデア提案制度を立ち上げました。

2013年度はテーマを設定しアイデアを募集するとともに優秀な提案を選出し表彰しました。

トピックス

☆ 製品セミナーの開催

2013年4月にFSC®森林認証紙を始めとする三菱製紙グループの製品に関するセミナーを開催しました。



☆ ピクトリコ写真展

ピクトリコでは、2009年からフォトコンテストを開始しました。受賞作品全点の展示は三菱製紙本社ギャラリー他で行っています。

作品にはさまざまな種類のインクジェット用紙が使用され、ご応募いただいたそのままのプリントで展示しています。



☆ フォトブックセミナーの開催

イメージング事業部では、三菱製紙ピクトチョイスを使ったフォトブック制作の勉強会を行っています。参加された皆さんには持参していただいた写真データを用いて、フォトブックに編集する作業を体験していただきました。



セミナーに参加された台東区写真連盟の皆さん

詳しくは、三菱製紙ホームページをご覧ください。
<http://www.mpm.co.jp/env/report-index.html>

☆ 本社ギャラリー

三菱製紙グループ製品をより身近に感じていただこうと、本社内にギャラリーを開設しました。常設展示のほか、年数回の企画展を開催しています。

また、三菱製紙の主要製品である印刷情報紙や最新のデジタル印刷用紙の各種見本を用意しています。



☆ 昭和女子大学との産学連携プログラム

昭和女子大学生活科学部環境デザイン学科プロダクトデザインコースにて、三菱製紙のプレスボードの端材・廃材を主素材に用いた新しいプロダクトデザインの提案をテーマにした授業が行われました。



授業の様子



提案されたデザイン

地域とのかかわり (※コミュニティへの参画およびコミュニティへの発展)

三菱製紙グループでは、製紙原料に関連して保有する森林を活用したエコシステムアカデミー（P25参照）のほか、各生産拠点がそれぞれのコミュニティの一員として行う地域貢献活動、情報記録・伝達のツールでもある紙や感光材料を製品としていることにも関連した文化貢献活動を、社会貢献活動の重点課題として取り組んでいます。

■ 技術を活かして

☆ 点字カレンダーの寄贈

三菱製紙の FSC®森林認証紙を用いて点字カレンダーを制作し、生産拠点ほか各地の社会福祉団体や点字図書館等に寄贈しています。1997年版より制作を始め、2014年版で18年目となりました。



☆ 写真プリントサービス

「北上展勝地 さくらまつり」写真プリントサービス
北上ハイテクペーパーでは、「北上展勝地 さくらまつり」の写真プリントサービス活動を北上市、北上商工会議所、北上観光コンベンション協会との連携で2011年から続けています。



☆ 書道パフォーマンス甲子園用紙提供

2013年7月に愛媛県で開催された第6回全国高等学校書道パフォーマンス甲子園において、八戸東高等学校が「南海放送賞」を受賞しました。八戸工場では同校の活動に協力し用紙を提供しています。



京都工場内の桜並木一般開放

京都工場では、工場内に桜並木があり「桜のトンネル」ができます。地域の方にも楽しんでいただけるようこの時期に一般開放を実施しています。写真撮影とプリントサービスを行い、好評をいただいています。



■ 地域環境への貢献

☆ 森林保全活動への参加

KJ特殊紙では、世界遺産にも登録された富士山麓の大自然を保全すべく、後世に伝えていくために1994年から始まった富士山麓ブナ林創造事業に6年前から参加しています。2400本のブナなどの苗を植樹しました。



■ 地域との共生

☆ 職場体験学習の受け入れ

菱紙では足立区、江戸川区、葛飾区の中学校、都立高等学校の奉仕活動、社会体育専門学校の実習を受け入れました。館内清掃、洗濯など職場実習に加え、フィットネスレッスンにも参加していただきました。



■ 海外での取り組み

☆ 前に向かって走りだそう！

ドイツのフランスブルグ工場では、2013年6月に開催されたシュレスヴィヒ・ホルスタイン州癌協会主催の駅伝イベント“Lauf ins Leben”（前向きに生きる意）に協賛し、駅伝チームとして参加、手作りワッフルの販売、福引大会を行いました。収益と各人の募金を同協会に寄付しました。

☆ 清掃活動

京都工場では、ゴミのない町を私たちの手でつくることを目的として最寄り駅から工場までの通勤路のゴミ拾いを実施しました。（写真）
つくばR&Dセンターでは、つくば市北部工業団地に所在する企業とともに外周道路を中心に一斉清掃を行いました。



☆ 近隣住民にも利用いただけるAED設置

浪速通運では、本社と南港営業所にAED（自動体外式除細動器）を設置し、近隣住民に利用いただけるようにしています。また、多くの従業員が救命講習を修了しています。



詳しくは、三菱製紙ホームページをご覧ください。
<http://www.mpm.co.jp/env/report-index.html>

2013年度の活動実績

2013年度は「ユーザーニーズを反映したCS向上」、「不安全行動災害撲滅に向けた取り組み強化」、「法令遵守の徹底」の3点を最重要課題に掲げて取り組み、製品面ではFSC®森林認証紙やサーマルディジプレート製版システムといった環境配慮型商品の充実を図りました。また、三菱製紙グループをとりまく環境からより一層の法令遵守が必要と認識し、2014年1月に法務部を立ち上げました。

基本方針	重点課題	アクションプラン	活動実績	評価
1. CSR 経営基盤の充実	ガバナンス体制の更なる充実	再編したコーポレート・ガバナンス体制のフォロー 法制度改正動向を踏まえた体制整備の検討	CSR推進体制と内部統制システムを一体化し、CSRレポート2013に掲載した 会社法の改正について情報収集した	○
	リスクマネジメント体制の確立	リスクマネジメント委員会によるリスクマップの充実	リスクマップの見直しを実施した 海外PL保険に加入した	○
	企業行動憲章、コンプライアンス行動基準の周知徹底	コンプライアンス教育の更なる充実により企業行動憲章、コンプライアンス行動基準の周知徹底を図る	役員・ライン管理職を対象に実施し、それに基づく職場内教育を実施した	○
	法令遵守の徹底	社会・地域との関係、取引先との関係、従業員との関係、株主・投資家との関係等それぞれの関係において業務上必要な法令を理解させるとともに遵守を徹底させる	コンプライアンス・ニュースを発行し、情報提供・啓発活動に努めた 法務部を設立しリーガルチェック機能の強化を図った	○
	ステークホルダー・コミュニケーションの推進	ホームページ等のIR情報の一層の充実 新製品情報等の発信（関連会社情報の発信） 本社ギャラリーの充実・活用 CSRレポートの一層の充実	CSRレポート・アニュアルレポートを発行した 新製品の他展示会、八戸工場仕上マシンの稼働等について発信した 取引先との共同を含め企画展を7回開催した ビジュアル化を図り、分かり易くした	○ ○ ○ ○
	グループ関連会社への展開	CSR委員会の訪問を通して情報の共有を深める	CSRレポート2013説明会開催後にライン管理職との意見交換を実施した	○
2. 環境経営の推進	地球温暖化防止に向けた活動の推進	事業活動や家庭でのCO ₂ 削減の推進 国内社有林を活用したCO ₂ 吸収増大の推進の検討 CO ₂ のスコープ3の動向フォロー	政府からの情報を発信、環境家計簿を推進した オフセット・クレジットが発行された 関連情報入手し、産業界の動向を分析した	○ ○ ○
	生物多様性保全に向けた活動の推進	FSC森林認証材調達比率の拡大と認証紙の普及 企業と生物多様性イニシアティブ（JBIB）への参加	FSC森林認証チップ割合（輸入）50%。FSCジャパンフォーラム、エコプロダクツ展等でPRした WGに参加し、ガイドラインの作成等を通じて生物多様性の保全に関する共同研究を行った	○ ○
	環境配慮商品の充実と拡大	FSC森林認証紙等の環境配慮商品の推進 感材事業の環境配慮新商品の新興国展開	FSC森林認証紙の販売量2012年度比112% TDPをインドネシア、タイ、フィリピンでPR	○ ○
	環境リスクと環境負荷低減への対応	環境事故防止の活動 環境への排出物の削減	法改正のフォローアップ、水銀条約の解説など通じて環境担当者の意識向上を図った	△
3. ユーザーニーズを反映したCS向上	製品安全の確保	化学物質管理の充実 PL小委員会活動の充実	化学物質の法規制やリスト改正時に適宜見直した PL小委員会を毎月開催。時事の情報を交換した	○ ○
	製品品質の確保	ISO9001の管理徹底と顧客満足度向上（クレーム減少等）の推進	クレーム件数は各工場ともに目標をクリアした	○
	ユーザーニーズを反映したCS向上	アイデア提案制度の定着と優良提案の発掘	実績が前年を大幅に下回ったため、活性化策としてテーマを設定しアイデアを募集した	△
4. 働きやすい職場作りに関する取り組みの充実	安全衛生に関する活動の充実	不安全行動災害撲滅に向けた取り組み強化 各場所の実情に合わせた取り組み項目の推進 自主的・自発的な安全衛生活動の推進体制の構築、好事例の水平展開、ヒヤリハットの有効活用、高齢者にスポットを当てた安全衛生の取り組みの推進など	年間計画に沿った安全衛生活動の促進、チェック、見直しを実施したが、グループ全体の安全成績は前年に比べやや悪化した	○
	人材パフォーマンス向上のための諸施策の推進	グループ全体をステージとする従業員の最適配置の実現 ワークライフバランスの推進 従業員のキャリア形成の仕組み作り 従業員満足度アップのための福利厚生制度の見直し運用	案件ごとに要員削減策を実施した 労働時間の各指標を確認、必要な措置を実施した グローバル人材育成プログラムの運用を継続（2名をドイツに派遣） 三菱製紙で誕生日ギフト等新サービスを継続中	○ ○ ○ ○
5. 社会貢献活動の推進	地域貢献活動の推進	各場所の地域活動への参加および地域との円滑な関係の継続	各場所にて地域活動に参加した。点字カレンダーを寄贈した。従業員の自発的参加を支援した	○
	文化貢献活動の推進	三菱グループ、業界団体関係を中心とした支援の継続的実施	三菱グループ、業界団体関係を中心とした支援を実施した	○
	エコシステムアカデミー活動の推進	活動再開	白河地区において活動を再開した 日本野鳥の会とのコラボレーションで環境セミナーを開催した	○

最重要課題

(評価) ○: 目標達成 △: 実施不十分

2014年度の目標

2014年度は安全成績の向上と関連法規の確実な実行に的を絞り、「安全衛生に関する活動の充実」、「法令遵守の徹底」を最重要課題として取り上げ、企業価値の向上につなげる活動を推進していきます。

「安全衛生に関する活動の充実」については、特に不安全行動災害撲滅に向けて設備面や管理面で問題のある災害件数の大幅減を課題に掲げ、全社一丸となって取り組みます。

基本方針	重点課題	アクションプラン
1. CSR 経営基盤の充実	ガバナンス体制の更なる充実	再編したコーポレート・ガバナンス体制のフォロー 法制度改正動向を踏まえた体制整備
	リスクマネジメント体制の確立	リスクマネジメント委員会によるリスクマップの充実
	企業行動憲章、コンプライアンス行動基準の周知徹底	コンプライアンス教育の更なる充実により企業行動憲章、コンプライアンス行動基準、関係法令の理解を深める
	法令遵守の徹底	法務機能の強化 業務上必要な法令の理解促進と遵守徹底（リガリティ向上） 各種規定等の整備（安全保障貿易管理規定を含む）
	ステークホルダー・コミュニケーションの推進	ホームページ等のIR情報の一層の充実 新製品情報等の発信（関連会社情報の発信） 本社ギャラリーの充実・活用 CSRレポートの一層の充実
	グループ関連会社への展開	CSR委員会の訪問を通して情報の共有を深める
2. 環境経営の推進	地球温暖化防止に向けた活動の推進	事業活動や家庭でのCO ₂ 削減の推進 国内社有林を活用したCO ₂ 吸収増大の推進の検討 CO ₂ のスコープ3の動向フォロー
	生物多様性保全に向けた活動の推進	FSC®森林認証材調達比率の拡大 企業と生物多様性イニシアティブ（JBIB）への参加
	環境配慮商品の充実と拡大	FSC森林認証紙等の環境配慮商品の推進 感材事業の環境配慮新商品の新興国展開
	環境リスクと環境負荷低減への対応	産業廃棄物の低減 地域環境活動の推進
3. ユーザーニーズを反映したCS向上	製品安全の確保	化学物質管理の充実 製品安全対策小委員会活動の充実
	製品品質の確保	ISO9001の管理徹底と顧客満足度向上（クレーム減少等）の推進
	ユーザーニーズを反映したCS向上	優良提案の発掘に向けたテーマの設定
4. 働きやすい職場作りに関する取り組みの充実	安全衛生に関する活動の充実	全員参加による不安全行動災害撲滅に向けた取り組み強化 「決められたことは必ず守る」ための取り組み 私傷病の発生防止に向けた取り組み強化 定期健康診断結果のフォローの徹底 メンタルヘルス対策の推進
	人材パフォーマンス向上のための諸施策の推進	グループ全体をステージとする従業員の最適配置の実現 ワークライフバランスの推進 従業員のキャリア形成の仕組み作り 従業員満足度アップのための福利厚生制度の見直し運用
5. 社会貢献活動の推進	地域貢献活動の推進	各場所の地域活動への参加および地域との円滑な関係の継続
	文化貢献活動の推進	三菱グループ、業界団体関係を中心とした支援の継続的実施
	エコシステムアカデミー活動の推進	再開した活動の推進

最重要課題

■ 三菱製紙グループ 企業行動憲章

三菱製紙グループ各社経営トップは、本憲章の実行が自らの責務であることを認識し、本憲章に反する事態が発生したときには、自らが問題解決にあたり、責任ある対応をします。

三菱製紙グループ企業行動憲章

- 1. 【企業活動の目的】**
紙、パルプおよび写真感光材料を中心に、高い技術力を活かして社会に有用な製品およびサービスの開発と提供を行い、豊かな社会の実現に貢献することを企業活動の目的とします。
- 2. 【法令の遵守】**
国内外の法令およびその精神を遵守し、社会の一員として良識をもって品位ある行動をします。
- 3. 【企業活動の透明性】**
公正、透明な企業活動を行い、積極的かつ適正に企業情報を開示して顧客、株主、地域社会その他の関係者とのコミュニケーションを図り、社会からの理解を深めるよう努めます。
- 4. 【製品・サービスの安全性】**
製品およびサービスの開発・提供にあたっては、安全性に最大限の配慮をします。
- 5. 【環境との共生】**
環境問題に真摯に取り組み、森林資源の育成に注力するなど、かけがえない地球環境を維持し、循環型社会の構築に貢献します。
- 6. 【社会貢献活動への参加】**
社会と共生していることを常に認識し、積極的に社会貢献活動に参加します。
- 7. 【従業員の尊重】**
従業員の人間性を尊重し、職場においては安全を第一に考え、各人が働きやすく充実感を持てる職場環境を作ります。
- 8. 【反社会的勢力との断絶】**
市民社会の秩序と安全を保持することに努め、反社会的勢力には毅然とした態度で対応します。
- 9. 【国際社会との協調】**
海外においては、その文化、習慣を十分に尊重し、現地からの信頼を獲得するよう努めます。

2007年1月制定

■ 三菱製紙グループ行動規範

三菱製紙グループ企業行動憲章に適った企業行動をとるために、グループの役員および従業員が守らなければならない行動の規範を定めます。

三菱製紙グループ行動規範

- 1. 法規範の遵守**
 - ①日本国及び関連する海外法令の遵守
 - ②良識と責任のある行動
 - ③法令の最優先
- 2. 社会との関係**
 - ①社会への貢献
 - ②各種業法の遵守
 - ③寄付・献金関係法令の遵守
 - ④反社会勢力との関係断絶
 - ⑤環境の保全
 - ⑥地域社会との協調
 - ⑦安全保障貿易管理
 - ⑧輸出入関連法令の遵守
- 3. お客様・取引先・競争会社との関係**
 - ①製品の安全性
 - ②独占禁止法の遵守
 - ③購買先との適正取引、下請法の遵守
 - ④不正競争の防止
 - ⑤社外との誠実な対応
 - ⑥常識的な接待・贈答
 - ⑦外国公務員贈賄の禁止
 - ⑧適正な表示・広告
- 4. 株主・投資家との関係**
 - ①経営情報の開示
 - ②インサイダー取引の禁止
- 5. 従業員ほか個人との関係**
 - ①人権の尊重、差別の禁止
 - ②セクシャル・ハラスメントの禁止
 - ③個人情報保護
 - ④職場の安全衛生の確保
 - ⑤労働関係法令の遵守
- 6. 会社・会社財産との関係**
 - ①就業規則の遵守
 - ②適正な会計処理
 - ③利益相反の禁止
 - ④就業時間中・会社内での政治・宗教活動の禁止
 - ⑤企業秘密の管理
 - ⑥会社資産の適切な使用
 - ⑦情報システムの適切な使用
 - ⑧知的財産の保護
- 7. その他**
 - ①公益通報者の保護

2009年7月改訂

■ 原材料調達の基本となる考え方

資材購買の基本方針

1. 公平・公正

三菱製紙は、購買先との取引において良識と誠実さをもって接し、公平かつ公正にあつかります。

2. 最適な購入品の調達

原材料・副資材・燃料・機械等全ての購入品において品質・コスト・納期・技術開発力・安定供給および企業姿勢（法令遵守、知的財産権の保護、人権擁護、労働者への健康や安全への配慮、環境への配慮など）を総合的に判断し最も適した取引先を決定します。とくに海外との取引においては、相手先が生物多様性、児童労働の防止などに十分配慮していることを確認のうえ、取引先を決定します。

3. パートナーシップ

全ての購買先は、競争力のある製品を提供するためのパートナーとの認識のもと、相互に繁栄を図る取引関係の確立を目指しております。

2009年11月改訂

森林資源の保護・育成と木材調達および製品の考え方

1. 現地の法律や規則を遵守して生産されていることを確認の上、木材を調達します。
2. 高い保全価値を持ち、その価値が脅かされている森林からの木材を調達しません。
3. 伝統を守る権利または市民権が侵害されている森林からの木材を調達しません。
4. 遺伝子組み換えによる樹木からの木材を調達しません。
5. 植林木、来歴や環境配慮が明確な二次林材、あるいは再利用材を調達します。
6. 適切に管理された森林からの木材（FSC®森林認証材）の調達を進めます。
7. FSC森林認証製品の積極的な開発・販売を通して、適切な森林管理および信頼のおける森林認証制度の普及を推進します。

2005年6月制定

■ 環境憲章

環境憲章

●基本理念

三菱製紙グループは、地球環境の保全、循環型社会の構築に積極的に貢献できる企業グループを目指しており、地球温暖化防止ならびに生物多様性保全に努めるとともに、森林資源の持続可能な利用を通じて、皆様からの信頼に応えるべく努力します。

●基本方針

1. 地球温暖化対策の推進
2. 生物多様性保全に配慮した森林資源の保護・育成
3. 資源の循環利用の推進
4. 環境負荷の少ない生産技術・製品の開発
5. 環境管理システムの充実
6. 環境コミュニケーションの充実
7. 緊急時の適切な対応

2010年7月改訂

■ 製品安全憲章

製品安全憲章

三菱製紙は、お客様に有用で安全な製品と、満足していただけるサービスを提供することが、企業の社会的役割であることを認識し、優れた技術力を駆使して、社会に安全な製品を提供してまいりました。

今後とも、健全な経営を維持し、時代のニーズに応えた、安全な製品と満足して頂けるサービスを、社会に提供し続けるため、下記事項を全社挙げて確実に実行してまいります。

- (1) 品質管理体制と製品安全管理体制を強化し、常に最新の科学と技術により安全を確認した製品を提供いたします。
- (2) 製造工程の安定化を図り、常に一定の品質の製品を提供いたします。
- (3) 製品の正しい使用方法と製品の安全性に関する情報を、適切かつ的確に提供いたします。

1995年3月制定

■ 化学物質管理

化学物質管理指針（抜粋）

1. 製造工程化学物質の管理

製造工程で使用する化学物質の環境への負荷並びにヒト、生物への影響を抑制することを目的とする。化学物質排出把握管理促進法（以下、PRTR法）に基づき、調達、貯蔵・保管、製造、排出、廃棄の各工程において化学物質を管理する。

2. 製品含有化学物質の管理

「地球環境、健康、生態系に対する影響の大きい物質や危険性の高い物質は製品へ使用しない」という基本原則のもとで、より安全な製品を提供することを目的とする。社内分類基準に基づき、製品に含有される化学物質の管理を行う。

2012年1月改訂

グリーン調達基準（抜粋）

物品調達時における化学物質の環境負荷低減を考慮するとともに、化学物質管理をより厳格に行うために、「グリーン調達基準および調査要領」を定める。

2014年2月改訂

全社安全衛生管理要綱（一部抜粋）

■ 基本理念

三菱製紙グループの事業活動に携わるすべての人の安全と衛生を最優先に考え、安心して働ける企業文化を醸成し、災害のない健全な職場環境を実現する。

人権・労働に関する理念と指針

理念：私たちは、従業員の人間性を尊重し、職場においては安全を最優先に考え、各人が能力をフルに発揮し、働きやすく充実感を持てる職場環境を作ります。

指針：1. 人権の尊重と差別の禁止

健全な職場環境を維持することに努め、従業員各自の人権を尊重し、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなど人権を無視する行為や、出生、国籍、人種、民族、宗教、性別、年齢、各種障害、学歴などに基づく差別につながる行為は一切行わない。児童労働・強制労働は行わない。また、従業員の個人情報については、個人情報保護法に従い、適正に取り扱う。

2. 職場の安全衛生の確保

職場においては、安全・衛生の確保を最優先とし、安全で衛生的な職場環境の整備に努め、労働安全衛生法のほか関係法令を理解し、これを遵守する。

3. 労働関係法令の遵守

労働基準法ほかの労働関係法を遵守し、働きやすい健康な職場環境の維持に努める。 2009年7月制定

■ 人権労働に関する主な取り組み

理念と基本方針

- 方針の制定と周知……………人権・労働に関する理念と指針の制定、周知
- 推進体制の確立……………CSR経営体制の一環としての人権・労働委員会
- 労使協調……………良好な労使関係の維持発展と情報・意見交換の場を多様化

働きやすい職場作り

- ワークライフバランス……………年次有給休暇取得の促進(2013年度実績取得率 87.6%)
保存年休の日数増と使途拡大
育児・介護に係る法定超の休業、休暇等の制度の制定
- 労働時間管理……………労働時間適正管理による長時間労働・過重労働防止
- 公正な評価・処遇……………人事考課制度の活用と縦のコミュニケーションの深化
- チーム型目標管理制度……………経営目標への同期と横のコミュニケーションの深化
- 自己申告制度の活用……………働きやすさやキャリアアップの追及
- ハラスメント対応……………ハラスメント防止規則の整備(パワハラ含む)
- ホットラインの活用……………会社の事業活動や各職場の業務活動の改善に活用

人材育成

- 活躍機会の多様化……………研究専門職制度の制定・活用
- 教育制度の充実……………階層別教育、専門教育を柱とする教育体系の充実
- グローバル人材育成……………公募制でグローバル人材育成プログラムを実施し、海外幹部候補を育成
- コンプライアンスの徹底……………教育の充実による日常的なコンプライアンス意識の醸成
- 自己申告制度の活用……………働きやすさやキャリアアップの追及
- 自己啓発の推進……………168の講座より各自の業務、興味にあわせ受講可能
終了時には費用半額を会社補助

ダイバーシティの実現

- 女性の活用……………女性の採用の拡大と平等な処遇
- 障がい者雇用……………法定を超える障がい者雇用率への取り組みを促進(2013年度三菱製紙実績 2.16%)
- 高齢者の活用……………再雇用制度の拡充と技術・技能の継承
- 多様な雇用機会の提供……………パート・派遣の活用、正しい法理解の教育(派遣・請負)

福利厚生の充実

- 住宅(社宅・独身寮)……………各拠点における住宅の確保
- 総合型福利厚生制度……………多様なメニューの中から各個人にあったサービスを選択できる福利厚生制度の活用
- 文体活動補助……………各種文化体育活動の奨励と会社補助

情報開示方針

1. 基本方針

「三菱製紙グループ企業行動憲章」の「3. 企業活動の透明性」に基づき、適切な会社情報を、顧客・株主・地域社会などに向けてタイムリーに開示します。

2. 開示基準

- ①上場企業のルールである東京証券取引所の「適時開示規則」に則って情報を開示します。
- ②「適時開示規則」に該当しない場合でも、投資判断に影響を与えると判断した情報は開示します。
- ③三菱製紙グループの社会的認知、理解を深めるために有効と思われる情報を開示します。

3. 開示方法

適時開示情報システム(TDnet)各報道機関、および、ホームページを通じて開示します。

2009年3月制定

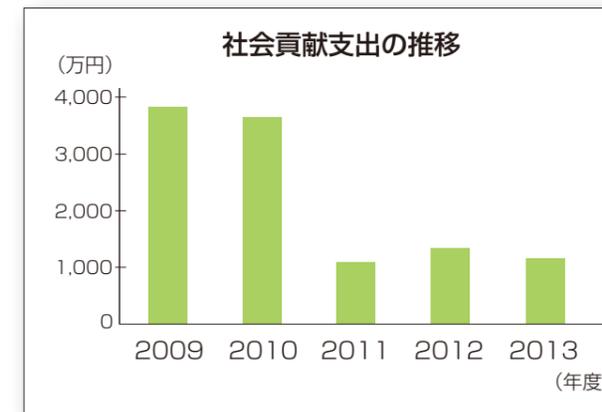
社会貢献活動方針

- かけがえのない地球環境を維持し、循環型社会の構築に貢献します。(環境保全)
→「FSC®森林認証の森」の支援、NPOとの協業による間伐支援等、事業活動を活かした地球環境の保全に取り組めます。
- 地域に根ざした社会貢献活動を充実します。(地域社会との共生)
→工場・事業所を主体に、地域貢献活動に積極的に取り組み、地域社会の発展に貢献します。
- 社員の自発的な社会貢献活動を支援します。(ボランティア活動支援)

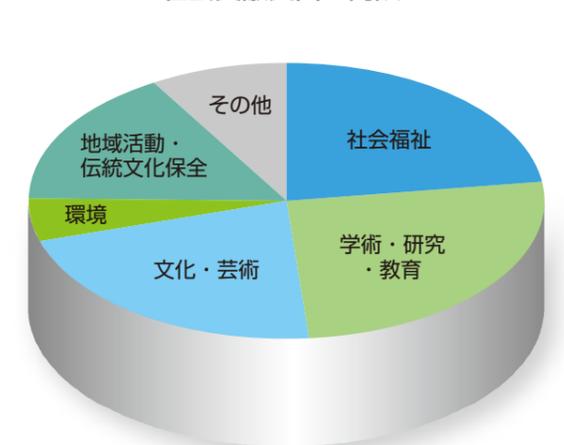
2008年1月制定

■ 社会貢献支出の推移

三菱製紙は、経団連1%クラブに加入しており、毎年の社会貢献活動実績を報告しています。



社会貢献支出の内訳



■ 自然災害被災地復興への支援

三菱製紙グループは積極的に復興支援を行っています。

- ・2008年5月『中国・四川大地震』 義援金 120万円
- ・2010年3月『チリ大地震』 義援金 100万円
- ・2011年3月『東日本大震災』 救援物資※

※【岩手県】 トイレットロール 585 ケース
カップ麺 2000 食
ミネラルウォーター 300 本
【福島県】 トイレットロール 200 ケース

エコバランス

三菱製紙グループの工場を中心として、2013年度の紙の生産に使用される原材料やエネルギーを「資源の投入」として、紙を生産した際に排出されるものを「環境への排出」として記載しています。

参考として、ドイツ2工場も数値を示していますが、制度の違い等により三菱製紙グループの合計に加えていません。
(集計範囲：三菱製紙、グループ製造会社5社)

資源の投入

主原料 (千t)	
輸入木材チップ	747
国内木材チップ	406
購入パルプ	40
古紙	42
無機顔料	72
エネルギー (原油換算千kl)	
化石燃料	231
購入電力	45
バイオマス	312
廃棄物燃料	41
用水 (百万t)	
工業用水	126

三菱製紙グループ (国内)



環境への排出

大気への排出	
CO ₂ 排出量(千t)	946
NOx排出量(千Nm ³)	878
SOx排出量(千Nm ³)	266
ばいじん	322
水系への排出	
排水量(百万t)	125
COD(t)	6,359
SS(t)	3,609
廃棄物(千t)	
廃棄物発生量	96
有効利用量	75
最終処分量	10
製品販売量	
紙(千t)	800
感材(百万m ²)	34
パルプ(千t)	90

【参考】ドイツ2工場

購入パルプ量(千t)	135	CO ₂ 排出量(千t)	42
古紙(千t)	0	排水量(千t)	2,057
用水使用量(千t)	2,798		

化学物質管理

PRTR データ PRTR 対象物質の排出移動量 (2013年度) 単位kg/年 (ダイオキシンのみ mg-TEQ/年)

No.	PRTR 第1種指定化学物質	政令No.	排出量		移動量	
			大気	水域	下水道	事業所外
1	塩化第二鉄	71	0	0	0	0
2	銀およびその水溶性化合物	82	0	0	0	0
3	クロロホルム	127	14,200	3,700	0	0
4	シクロヘキシルアミン	154	0	0	0	0
5	2,2-ジプロモ-2-シアノアセトアミド	210	0	908	0	20
6	ダイオキシン類	243	40.00	7.24	0.00	7.30
7	トリエチルアミン	277	2,200	0	0	0
8	トルエン	300	1,500	0	0	3,900
9	ヒドラジン	333	0	0	0	0
10	ヒドロキノ	336	0	0	350	0
11	ホウ素およびその化合物	405	0	0	68	0
12	ホルムアルデヒド	411	324	1	64	2
13	メチルナフタレン	438	300	0	0	0

・ダイオキシン類は基準より少ないレベルです。

(集計範囲：三菱製紙、北上ハイテクペーパー)

PCB

高濃度 PCB 含有機器については、日本環境安全事業社 (JESCO) へ処理委託しており、これまでに約 62%の無害化処理が完了しました。

今後も法令に基づき、適正管理を進めていきます。

(集計範囲：三菱製紙)

環境指標

環境負荷データ

2013年度環境負荷データ

		05年度実績	13年度実績	目標	備考	
資源	化石エネルギー消費量	TJ	14,818	10,596	-	化石燃料+購入電力
	化石エネルギー原単位	GJ/製品t	13.9	11.8	12.1	14年度目標
	用水使用量	百万t	125	124	-	
	排水量	百万t	-	123	-	
大気	海外植林面積	ha	24,981	28,862	44,000	最終目標
	CO ₂ 排出量※1	千t	1,130	943	1,016	15年度目標
	NOx	千Nm ³	1,076	878	-	
	SOx	千Nm ³	247	265	-	
水質	ばいじん	t	444	322	-	
	COD	t	7,717	6,359	-	
廃棄物	SS	t	3,417	3,599	-	
	産廃発生量	千t	120	95	-	
	最終処分量	千t	15	10	-	
	最終処分量※2	対生産量%	1.40%	1.09%	0.30%	13年度目標

※1 購入電力分のCO₂排出量は、電気事業連合会公表のCO₂排出係数を使用しています。

※2 廃棄物最終処分量 = (最終処分量 / 生産数量) × 100

(集計範囲：三菱製紙、北上ハイテクペーパー、KJ特殊紙)

環境会計

集計範囲：三菱製紙 (本社、つくばR&Dセンター、高砂工場、京都工場、八戸工場、白河事業所)、北上ハイテクペーパー、KJ特殊紙

対象期間：2013年4月1日～2014年3月31日

集計方法：環境省「環境会計ガイドライン 2005年版」に準拠

環境保全コスト

単位：百万円

分類	主な取組の内容	投資額	費用額
(1) 事業エリア内コスト		141	2,365
①公害防止コスト	大気汚染・水質汚染・悪臭・騒音・振動対策等	35	1,418
②地球環境保全コスト	国内植林、海外植林、省エネルギー対策等	106	1
③資源循環コスト	廃棄物対策、古紙等製品リサイクル処理等	0	946
(2) 上下流コスト	容器包装材料等回収・リサイクル等	321	347
(3) 管理活動コスト	環境教育、環境管理システム、認証取得等	8	83
(4) 研究開発コスト	環境配慮商品開発等	0	274
(5) 社会活動コスト	緑化・環境美化、環境情報公開等	28	37
(6) 環境損傷コスト	公害健康賦課金	0	54
合計		498	3,160

環境保全対策に伴う経済効果

単位：百万円

分類	効果の内容	金額
収益	回収パレット再利用効果 有効資源化による売却益	328 7
費用削減	省エネルギーによる費用削減 原料流出防止による費用削減	62 246
合計		643

用語の解説

NOx：窒素酸化物のこと。燃料などの燃焼に伴って発生し、工場の煙や自動車の排気ガスに含まれる。

SOx：硫黄酸化物のこと。石油や石炭などの化石燃料を燃焼するときに排出される。

ばいじん：燃料などの燃焼に伴って発生するすすなどの固体粒

子状物質のこと。

COD：化学的酸素要求量のこと。水中の有機物を酸化剤で分解する際に消費される酸素の量を表しており、河川、湖沼、海域の有機物による汚染状況を測る代表的な指標。

SS：浮遊物質のこと。水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質。

会社概要

社名 三菱製紙株式会社
 MITSUBISHI PAPER MILLS LIMITED
 所在地 東京都墨田区両国2丁目10番14号
 代表者 取締役社長 鈴木 邦夫
 創業 1898年(明治31年)
 資本金 32,756百万円

主な事業内容 三菱製紙グループは、紙・パルプ・写真感光材料の製造、加工および販売を主要な事業としており、事業部門別の主要な商品およびサービスは次のとおりです。

【紙・パルプ事業】

塗工印刷用紙、非塗工印刷用紙、微塗工印刷用紙、特殊印刷用紙、情報用紙、衛生用紙、電気絶縁プレスボード、高級白板紙、特殊白板紙、その他特殊用紙、晒クラフトパルプ、特殊パルプ

【イメージング事業】

インクジェット用紙、写真印画紙、写真印画紙用原紙、印刷製版材料、印刷機器類、製版用ソフトウェア、各種処理薬品

【機能材事業】

不織布、化学紙、フィルター、リライトメディア、バッテリーセパレータ、各種機能材料

【その他部門】

スポーツ施設運営、保険代理店業、旅行代理店業、不動産業、倉庫業、運輸関連業、エンジニアリング業務

主要拠点

本社 東京都
 営業所 大阪営業所
 生産拠点 高砂工場、京都工場、八戸工場、北上事業本部、白河事業所
 研究拠点 つくばR&Dセンター、京都R&Dセンター、生産技術センター

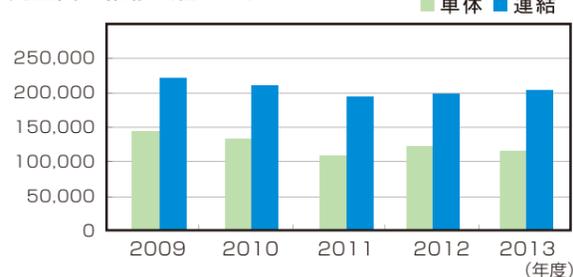
連結子会社 国内 20社、海外 5社

主要な連結子会社

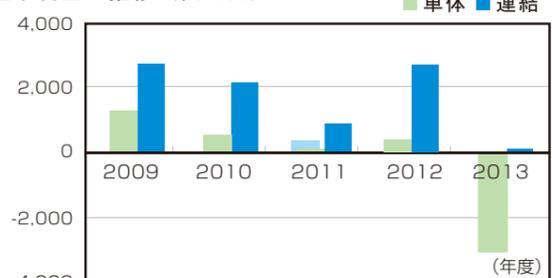
三菱製紙販売株式会社、ダイヤミック株式会社、エム・ピー・エム・オペレーション株式会社*、北上ハイテクペーパー株式会社*、KJ特殊紙株式会社*、東邦特殊パルプ株式会社*、株式会社オストリッチダイヤ*、旭感光紙株式会社*、菱紙株式会社、浪速通運株式会社、株式会社ピクトリコ、エム・ピー・エム・シェアードサービス株式会社、三菱製紙エンジニアリング株式会社、三菱ペーパーホールディング(ヨーロッパ) GmbH、三菱ハイテクペーパーヨーロッパ GmbH*

* 生産子会社

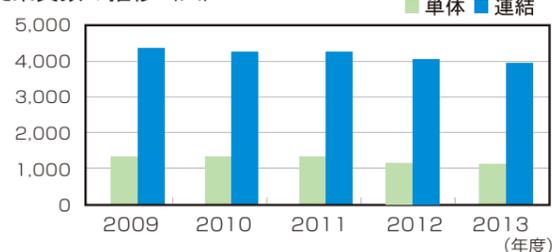
●売上高の推移(百万円)



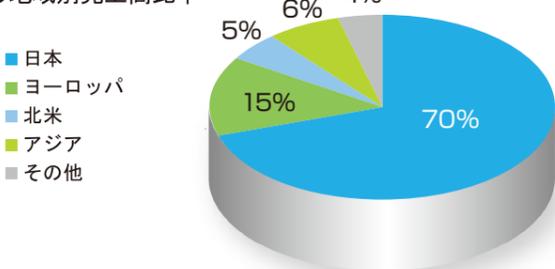
●経常利益の推移(百万円)



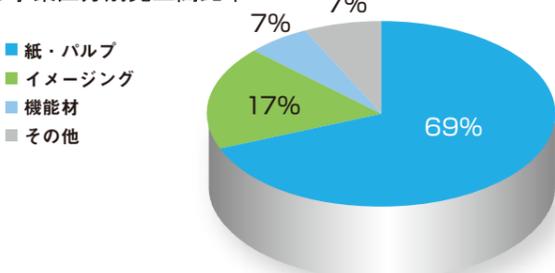
●従業員数の推移(人)



●地域別売上高比率



●事業区分別売上高比率



第三者意見



太田 猛彦氏

東京大学名誉教授
 特定非営利活動法人 日本森林管理協議会代表
 環境省環境回復検討委員会
 森林と水の関係を中心に、治山・砂防、森林管理、森林行政、環境行政、流域管理、技術者教育等に幅広く取り組まれています。

CSR 活動は企業の本業活動を通じて社会に貢献するのが王道とされ、最近はそのことを意識する企業が増えてきました。三菱製紙グループは CSR 活動を本格的に開始した 2007 年以來、本レポートの特集「環境・社会課題に向けた取り組み」に示すように、「特徴ある CSR 活動」として本業で森林の保全/持続的利用を推進する「FSC®森林認証制度」を組み込んだ原料調達、製品生産を進めてきました。その成果は 2 年連続して日本政策投資銀行から環境格付の最高ランクに認定されたように CSR 先進企業として高く評価されています。

また、CSR レポート 2014 は、CSR 活動を行う上で参照することが求められている国際的なガイドライン規格である「ISO26000」に則って取りまとめられています。特に同規格が示す 7 つの中核主題のうち、昨年のレポートでは必ずしも明確でなかった「公正な事業慣行」についても下請や原料調達における倫理的行動の推進策が具体的に説明されており、CSR レポートとしての完成度もさらに高まりました。その上、各ステークホルダーとのコミュニケーションについても実態を調査し報告していく意欲が感じられます。このように、CSR 活動の内容やその報告/情報発信における貴社の努力には敬意を表します。

一方、「環境とのかかわり」では、地球温暖化防止の

項を中心に製造部門の化石エネルギー消費量やオフィスビルでの電力使用量などほとんどの部門で引き続き成果が上がっているようですが、廃棄物の有効利用の部分で最終処分量が増加しています。今後この点を改善して、貴社が環境格付の最高ランクの常連でいて欲しいと思います。

また、「従業員とのかかわり」では、一昨年来不安全行動災害の撲滅に向けて精力的に取り組んでこられたにもかかわらず、昨年は改善されていた休業災害度数率が再び悪化しており大変残念です。その原因の更なる分析、取り組みの内容の一層の工夫が望まれます。

2013 年度の CSR 活動を総括し、最近の企業を取り巻く環境を考慮して、2014 年度の活動目標を安全成績の向上とより一層の法令遵守に的を絞ったことは各ステークホルダーにとっても活動の意図が分かり易くなりました。その上で各中核主題の解決に向けた活動も積極的に推進して CSR 先進企業としての地位を不動のものにしていただきたいと思います。なお、最近、財務報告と非財務情報を統合した報告書形式とする企業が散見されます。貴社におかれましても統合報告書への移行を検討されていると伺っており、本レポートもそれを意識して作成されているように思います。統合報告書への移行が早期に実現されるよう期待しております。

ご意見をいただいて

2013 年度は、「ユーザーニーズを反映した CS 向上」、「安全衛生に関する活動の充実」、「法令遵守の徹底」の 3 点を最重要課題に掲げて取り組み、製品面では FSC 森林認証やサーマルディジプレート製版システムなど環境配慮商品の充実を図りました。太田先生からご評価いただいた点については今後も継続し、指摘事項につきましてはしっかりと受け止め、今後の課題として早期実現に向けて取り組んでまいります。

2014 年度は、安全成績の向上と関連法規の確実な実行に的を絞り、「安全衛生に関する活動の充実」、「法令遵守の徹底」を最重要課題として取り上げました。ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを今後ますます活性化し、企業価値の向上につなげる活動を推進いたします。

なお、今後の CSR 活動の報告につきましては、統合報告書の形式を検討中です。財務報告とともに、非財務情報をわかりやすくお伝えできるよう努めてまいります。



水野 正望

三菱製紙株式会社
 代表取締役 専務執行役員
 (CSR 担当役員)

本レポートの内容で、とくに興味を持たれたものはどれですか？（複数回答可）

三菱製紙グループについて	<input type="checkbox"/> トップメッセージ	<input type="checkbox"/> 経営施策について	<input type="checkbox"/> 三菱製紙グループの紹介
特集1 お客様と共に行う森林保全	<input type="checkbox"/> FSC®マークを知ってもらうために	<input type="checkbox"/> FSC森林認証制度について	<input type="checkbox"/> Mori-smile®プロジェクト
特集2 地域木材産業の振興	<input type="checkbox"/> 岩手県産二次林材の循環利用促進	<input type="checkbox"/> FSC国際本部事務局長の来社	<input type="checkbox"/> 間伐の促進と間伐材の利用推進
特集3 商品を通じた環境への貢献	<input type="checkbox"/> FSC森林認証の森サポーター制度	<input type="checkbox"/> 「FSC森林認証紙」にできること	<input type="checkbox"/> FSC森林認証材の地産地消への貢献
コーポレート・ガバナンス	<input type="checkbox"/> 拡がる「FSC森林認証紙」	<input type="checkbox"/> サーマルディジプレート	<input type="checkbox"/> 彩美 s < SaiVis >
公正な事業慣行	<input type="checkbox"/> エアフィルター	<input type="checkbox"/> R O膜支持体	<input type="checkbox"/> 電池セパレータ
環境とのかかわり	<input type="checkbox"/> 会社の機関の概要	<input type="checkbox"/> CSR推進体制	<input type="checkbox"/> コンプライアンス
従業員とのかかわり	<input type="checkbox"/> リスクマネジメント	<input type="checkbox"/> 株主・投資家とのかかわり	
お客様とのかかわり	<input type="checkbox"/> 公正な競争	<input type="checkbox"/> 汚職防止	<input type="checkbox"/> 合法性および適正管理の確認方法
地域とのかかわり	<input type="checkbox"/> 環境管理体制	<input type="checkbox"/> 地球温暖化防止	<input type="checkbox"/> 生物多様性保全
活動実績と目標	<input type="checkbox"/> エコシステムアカデミー	<input type="checkbox"/> 資源の循環利用と廃棄物の有効利用	
資料編 データ編	<input type="checkbox"/> 労働安全衛生の取り組みについて	<input type="checkbox"/> 働きやすい職場づくりに向けて	
第三者意見	<input type="checkbox"/> 品質管理体制	<input type="checkbox"/> 製品安全管理体制	<input type="checkbox"/> ユーザーニーズを反映したCS向上
	<input type="checkbox"/> トピックス		
	<input type="checkbox"/> 技術を活かして	<input type="checkbox"/> 地域環境への貢献	<input type="checkbox"/> 地域との共生
	<input type="checkbox"/> 2013年度の活動実績	<input type="checkbox"/> 2014年度の目標	<input type="checkbox"/> 海外での取り組み
	<input type="checkbox"/> 憲章・方針等	<input type="checkbox"/> 環境関係データ	
	<input type="checkbox"/> 第三者意見		

本レポートについての評価をお聞かせください。

1. 内容	<input type="checkbox"/> 充実している	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 不十分	
2. ページ数	<input type="checkbox"/> 多すぎる	<input type="checkbox"/> 適当	<input type="checkbox"/> 少ない	
3. デザイン	<input type="checkbox"/> 好い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	
4. 分りやすさ				
三菱製紙グループについて	<input type="checkbox"/> 大変分りやすい	<input type="checkbox"/> 分りやすい	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 分りにくい
コーポレート・ガバナンス	<input type="checkbox"/> 大変分りやすい	<input type="checkbox"/> 分りやすい	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 分りにくい
公正な事業慣行	<input type="checkbox"/> 大変分りやすい	<input type="checkbox"/> 分りやすい	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 分りにくい
環境とのかかわり	<input type="checkbox"/> 大変分りやすい	<input type="checkbox"/> 分りやすい	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 分りにくい
従業員とのかかわり	<input type="checkbox"/> 大変分りやすい	<input type="checkbox"/> 分りやすい	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 分りにくい
お客様とのかかわり	<input type="checkbox"/> 大変分りやすい	<input type="checkbox"/> 分りやすい	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 分りにくい
地域とのかかわり	<input type="checkbox"/> 大変分りやすい	<input type="checkbox"/> 分りやすい	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 分りにくい

本レポートについてご意見、ご感想をお聞かせください。

()

本レポートをどのような立場でお読みになりましたか？

お客さま 投資家・株主さま 購買ご担当者 企業のCSR・環境ご担当者
 当社工場等が立地する地域の方 政府・行政関係の方 環境NGO・NPOの方
 報道関係の方 研究・教育機関の方 学生の方 当社関係者
 その他（具体的に： _____ ）

ご協力ありがとうございました。お差し支えなければ、以下へのご記入をお願いいたします。

性別 男性 女性 年齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代以上